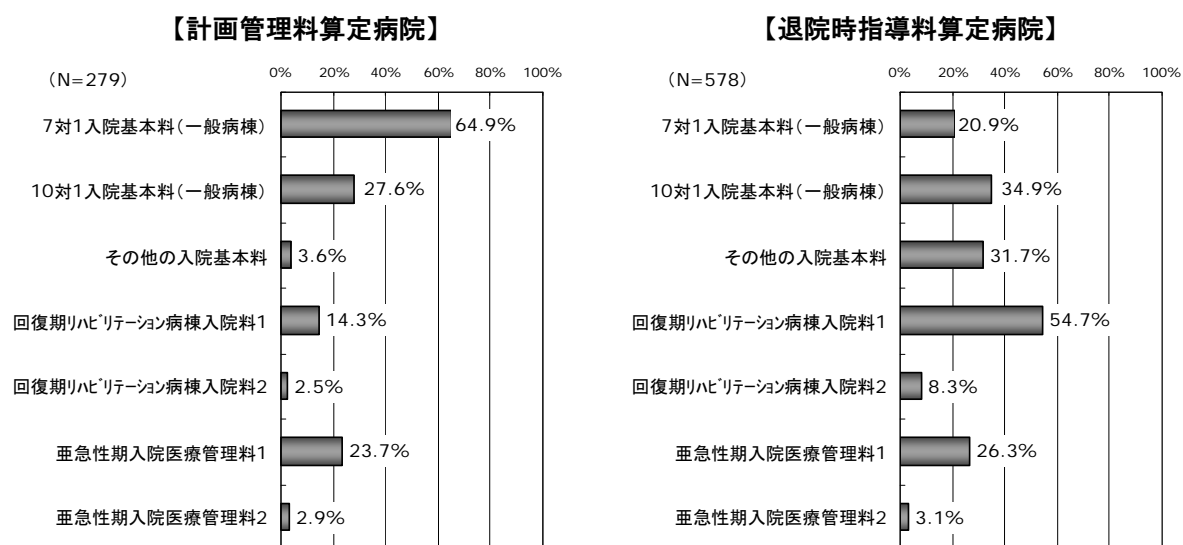


4) 地域連携診療計画管理料及び地域連携診療計画退院時指導料 回答病院

(1) 回答病院の概況

回答施設の診療報酬に係る届出状況についてみると、計画管理料算定病院では、「7対1入院基本料（一般病棟）」64.9%が最も多く、次いで「10対1入院基本料（一般病棟）」27.6%、「亜急性期入院医療管理料1」23.7%などとなっていた。一方、退院時指導料算定病院では、「回復期リハビリテーション病棟入院料1」54.7%が最も多く、次いで「10対1入院基本料（一般病棟）」34.9%、「その他の入院基本料」31.7%などとなっていた。

図表 4-1 診療報酬に係る届出状況【複数回答】



① 計画管理料、退院時指導料に係る状況

回答施設の届出に記載されている計画管理病院、連携保険医療機関の施設数について、大腿骨頸部骨折に係る状況をみると、計画管理料算定病院では、連携保険医療機関として「回復期リハビリテーション病棟入院料届出施設」37.0%が最も多く、次いで「10 対 1 入院基本料（一般病棟）届出病院」20.9%、「療養病棟入院基本料届出病院」20.1%などとなっていた。

一方、退院時指導料算定病院では、計画管理病院として「7 対 1 入院基本料（一般病棟）届出病院」67.7%が最も多く、次いで「10 対 1 入院基本料（一般病棟）届出病院」27.8%、「13 対 1 入院基本料（一般病棟）届出病院」1.4%などとなっていた。

図表 4-2 1 施設当たりの届出に記載されている計画管理病院、連携保険医療機関の施設数
[大腿骨頸部骨折]

【地域連携診療計画管理料算定病院における連携保険医療機関数 [大腿骨頸部骨折]

連携保健医療機関	1 施設当たり 連携施設数	割合
7 対 1 入院基本料（一般病棟）届出病院	0.59 施設	9.3%
10 対 1 入院基本料（一般病棟）届出病院	1.31 施設	20.9%
13 対 1 入院基本料（一般病棟）届出病院	0.50 施設	8.0%
15 対 1 入院基本料（一般病棟）届出病院	0.93 施設	14.8%
療養病棟入院基本料届出病院	1.26 施設	20.1%
回復期リハビリテーション病棟入院料届出施設	2.31 施設	37.0%
亜急性期入院医療管理料届出施設	0.17 施設	2.7%
1 施設当たり連携保健医療機関 病 院	6.26 施設	100.0%
1 施設当たり連携保健医療機関 有床診療所	0.72 施設	

※有効回答 147 件で集計

【地域連携診療計画退院時指導料算定病院における計画管理病院数 [大腿骨頸部骨折]

計 画 管 理 病 院	1 施設当たり 連携施設数	割合
7 対 1 入院基本料（一般病棟）届出病院	1.45 施設	67.7%
10 対 1 入院基本料（一般病棟）届出病院	0.60 施設	27.8%
13 対 1 入院基本料（一般病棟）届出病院	0.03 施設	1.4%
15 対 1 入院基本料（一般病棟）届出病院	0.00 施設	0.1%
療養病棟入院基本料届出病院	0.00 施設	0.1%
1 施設当たり計画管理病院	2.14 施設	100.0%

※有効回答 371 件で集計

また、回答施設の届出に記載されている計画管理病院、連携保険医療機関の施設数について、脳卒中に係る状況をみると、計画管理料算定病院では、連携保険医療機関として「回復期リハビリテーション病棟入院料届出施設」49.6%が最も多く、次いで「療養病棟入院基本料届出病院」20.1%、「10対1入院基本料（一般病棟）届出病院」18.0%などとなっていた。

一方、退院時指導料算定病院では、計画管理病院として「7対1入院基本料（一般病棟）届出病院」63.2%が最も多く、次いで「10対1入院基本料（一般病棟）届出病院」27.3%、「13対1入院基本料（一般病棟）届出病院」1.0%などとなっていた。

図表 4-3 1 施設当たりの届出に記載されている計画管理病院、連携保険医療機関の施設数
[脳卒中]

【地域連携診療計画管理料算定病院における連携保険医療機関数 [脳卒中]】

連携保健医療機関	1施設当たり 連携施設数	割合
7対1入院基本料（一般病棟）届出病院	1.01施設	8.9%
10対1入院基本料（一般病棟）届出病院	2.05施設	18.0%
13対1入院基本料（一般病棟）届出病院	0.67施設	5.9%
15対1入院基本料（一般病棟）届出病院	1.14施設	10.0%
療養病棟入院基本料届出病院	2.28施設	20.1%
回復期リハビリテーション病棟入院料届出施設	5.63施設	49.6%
亜急性期入院医療管理料届出施設	0.40施設	3.5%
1施設当たり連携保健医療機関 病 院	11.34施設	100.0%
1施設当たり連携保健医療機関 有床診療所	0.69施設	

※有効回答 169 件で集計

【地域連携診療計画退院時指導料算定病院計画管理病院数 [脳卒中]】

計 画 管 理 病 院	1施設当たり 連携施設数	割合
7対1入院基本料（一般病棟）届出病院	2.79施設	63.2%
10対1入院基本料（一般病棟）届出病院	1.21施設	27.3%
13対1入院基本料（一般病棟）届出病院	0.04施設	1.0%
15対1入院基本料（一般病棟）届出病院	0.03施設	0.6%
療養病棟入院基本料届出病院	0.01施設	0.1%
1施設当たり計画管理病院	4.41施設	100.0%

※有効回答 326 件で集計

回答施設における地域連携診療計画管理料算定患者数について、大腿骨頸部骨折に係る状況をみると、1施設当たり平均30.2人(N=156)となっていた。設定した入院期間内に連携医療機関へ転院・退院できた患者数は、1施設当たり平均21.0人(N=156)であり、連携医療機関から診療情報がフィードバックされた患者数は、1施設当たり平均24.2人(N=156)であった。

また、各回答施設における計画管理料算定患者数の大腿骨頸部骨折入院患者数に占める割合についてみると、1施設当たり平均29.5%(N=156)となっていた。計画管理料算定患者の割合別に施設数の構成をみると、「19%以下」47.4%が最も多く、次いで「20~49%」27.6%などとなっていた。

図表 4-4 1施設当たり地域連携診療計画管理料算定患者数【大腿骨頸部骨折】

【計画管理料算定病院における算定患者数【大腿骨頸部骨折】】

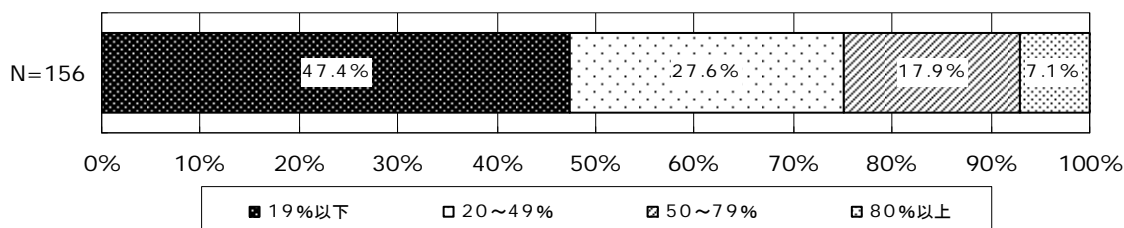
算 定	1施設当たり患者数	割合
大腿骨頸部骨折に係る計画管理料算定患者	30.2人	36.1%
設定した入院期間内に連携医療機関へ転院・退院できた患者	21.0人	25.1%
連携医療機関から診療情報がフィードバックされた患者	24.2人	28.9%
1施設当たり大腿骨頸部骨折による入院患者	83.5人	100.0%

※有効回答 156 件で集計

【各回答施設における計画管理料算定患者数の大腿骨頸部骨折入院患者数に占める割合】

平均 29.5%

※有効回答 156 件で集計



回答施設における地域連携診療計画退院時指導料算定患者数について、大腿骨頸部骨折に係る状況を見ると、1施設当たり平均10.8人（N=344）となっていた。設定した入院期間内に退院・転院できた患者数は、1施設当たり平均8.0人（N=344）であった。

また、各回答施設における退院時指導料算定患者数の大腿骨頸部骨折入院患者数に占める割合についてみると、1施設当たり平均26.3%（N=344）となっていた。退院時指導料算定患者の割合別に施設数の構成をみると、「19%以下」57.3%が最も多く、次いで「20～49%」18.9%などとなっていた。

図表 4-5 1施設当たり地域連携診療計画退院時指導料算定患者数【大腿骨頸部骨折】

【退院時指導料算定病院における算定患者数【大腿骨頸部骨折】】

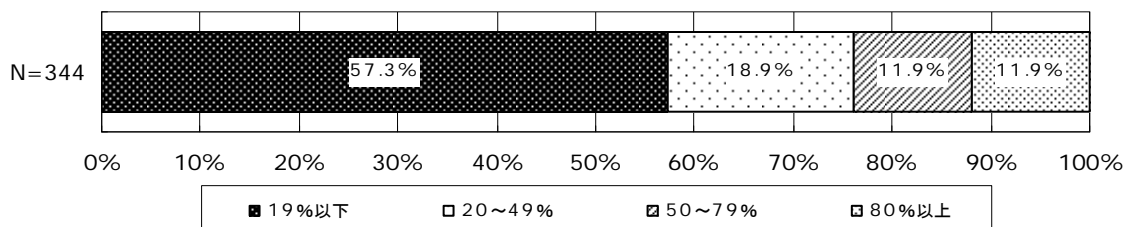
算 定	1施設当たり患者数	割合
大腿骨頸部骨折に係る退院時指導料算定患者	10.8人	21.0%
設定した入院期間内に退院・転院できた患者	8.0人	15.6%
1施設当たり大腿骨頸部骨折による入院患者	51.4人	100.0%

※有効回答 344 件で集計

【各回答施設における退院時指導料算定患者数の大腿骨頸部骨折入院患者数に占める割合】

平均 26.3%

※有効回答 344 件で集計



回答施設における地域連携診療計画管理料算定患者数について、脳卒中に係る状況を見ると、1施設当たり平均32.8人（N=186）となっていた。設定した入院期間内に連携医療機関へ転院・退院できた患者数は、1施設当たり平均22.7人（N=186）であり、連携医療機関から診療情報がフィードバックされた患者数は、1施設当たり平均22.2人（N=186）であった。

また、各回答施設における計画管理料算定患者数の脳卒中入院患者数に占める割合についてみると、1施設当たり平均13.2%（N=186）となっていた。計画管理料算定患者の割合別に施設数の構成をみると、「19%以下」75.3%が最も多く、次いで「20～49%」18.8%などとなっていた。

図表 4-6 1施設当たり地域連携診療計画管理料算定患者数【脳卒中】

【計画管理料算定病院における算定患者数【脳卒中】】

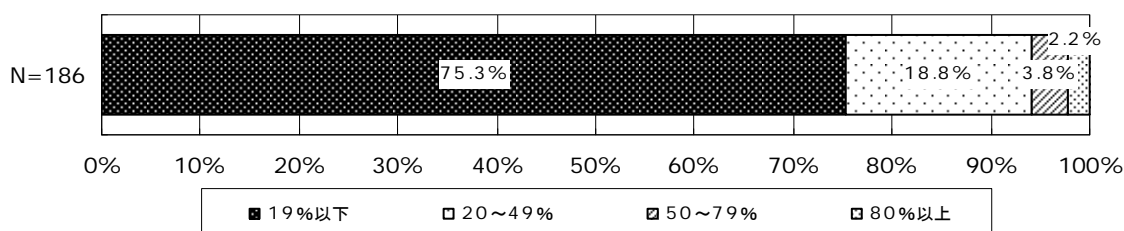
算 定	1施設当たり患者数	割合
脳卒中に係る計画管理料算定患者	32.8人	12.9%
設定した入院期間内に連携医療機関へ転院・退院できた患者	22.7人	8.9%
連携医療機関から診療情報がフィードバックされた患者	22.2人	8.8%
1施設当たり脳卒中による入院患者	254.0人	100.0%

※有効回答 186 件で集計

【各回答施設における計画管理料算定患者数の脳卒中入院患者数に占める割合】

平均 13.2%

※有効回答 186 件で集計



回答施設における地域連携診療計画退院時指導料算定患者数について、脳卒中に係る状況をみると、1施設当たり平均13.5人（N=361）となっていた。設定した入院期間内に退院・転院できた患者数は、1施設当たり平均9.5人（N=361）であった。

また、各回答施設における退院時指導料算定患者数の脳卒中入院患者数に占める割合についてみると、1施設当たり平均16.1%（N=361）となっていた。退院時指導料算定患者の割合別に施設数の構成をみると、「19%以下」77.3%が最も多く、次いで「20～49%」10.2%などとなっていた。

図表 4-7 1施設当たり地域連携診療計画退院時指導料算定患者数【脳卒中】

【退院時指導料算定病院における算定患者数【脳卒中】】

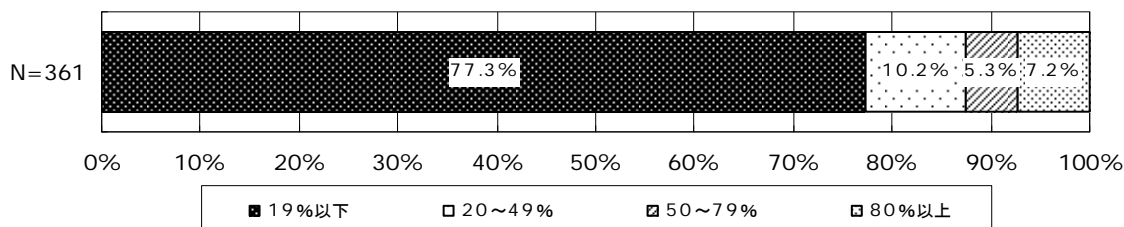
算 定	1施設当たり患者数	割 合
脳卒中に係る退院時指導料算定患者	13.5人	8.5%
設定した入院期間内に退院・転院できた患者	9.5人	6.0%
1施設当たり脳卒中による入院患者	159.0人	100.0%

※有効回答 361 件で集計

【各回答施設における退院時指導料算定患者数の脳卒中入院患者数に占める割合】

平均 16.1%

※有効回答 361 件で集計



回答施設における計画管理料、退院時指導料の算定患者の平均在院日数について、大腿骨頸部骨折に係る状況をみると、計画管理料算定患者では、平成 20 年度で 1 施設当たり平均 26.4 日 (N=118) となっており、大腿骨頸部骨折の入院患者と比較して短い傾向にあった。一方、退院時指導料算定患者では、平成 20 年度で 1 施設当たり平均 61.4 日 (N=218) となっており、計画管理料算定患者と同様、大腿骨頸部骨折の入院患者と比較して短い傾向にあった。

また、脳卒中に係る状況をみると、計画管理料算定患者では、平成 20 年度で 1 施設当たり平均 33.3 日 (N=138) となっており、脳卒中の入院患者と比較してやや長い傾向にあった。一方、退院時指導料算定患者では、平成 20 年度で 1 施設当たり平均 84.0 日 (N=226) となっており、脳卒中の入院患者と比較して短い傾向にあった。

図表 4-8 1 施設当たりの算定患者の平均在院日数 [大腿骨頸部骨折]

○ 地域連携診療計画管理料算定病院 [大腿骨頸部骨折]		
[H19] 計画管理料算定患者…	平均 26.6 日	
大腿骨頸部骨折による入院患者 …	平均 31.2 日	※有効回答 82 件で集計
[H20] 計画管理料算定患者…	平均 26.4 日	
大腿骨頸部骨折による入院患者 …	平均 31.6 日	※有効回答 118 件で集計
○ 地域連携診療計画退院時指導料算定病院 [大腿骨頸部骨折]		
[H19] 退院時指導料算定患者…	平均 61.2 日	
大腿骨頸部骨折による入院患者 …	平均 64.0 日	※有効回答 114 件で集計
[H20] 退院時指導料算定患者…	平均 61.4 日	
大腿骨頸部骨折による入院患者 …	平均 65.3 日	※有効回答 218 件で集計

図表 4-9 1 施設当たりの算定患者の平均在院日数 [脳卒中]

○ 地域連携診療計画管理料算定病院 [脳卒中]		
[H20] 計画管理料算定患者…	平均 33.3 日	
脳卒中による入院患者 …	平均 30.0 日	※有効回答 138 件で集計
○ 地域連携診療計画退院時指導料算定病院 [脳卒中]		
[H20] 退院時指導料算定患者…	平均 84.0 日	
脳卒中による入院患者 …	平均 89.1 日	※有効回答 226 件で集計

回答施設における地域連携診療計画に係る情報交換のための会合の開催回数について、計画管理料算定病院の状況をみると、大腿骨頸部骨折では平成 20 年度で 1 施設当たり平均 2.58 回 (N=205) となっており、脳卒中では 1 施設当たり平均 2.84 回 (N=236) となっていた。

また、退院時指導料算定病院の状況をみると、大腿骨頸部骨折では平成 20 年度で 1 施設当たり平均 3.11 回 (N=492) となっており、脳卒中では 1 施設当たり平均 3.70 回 (N=497) となっていた。

図表 4-10 1 施設当たりの地域連携診療計画に係る情報交換のための会合の開催回数

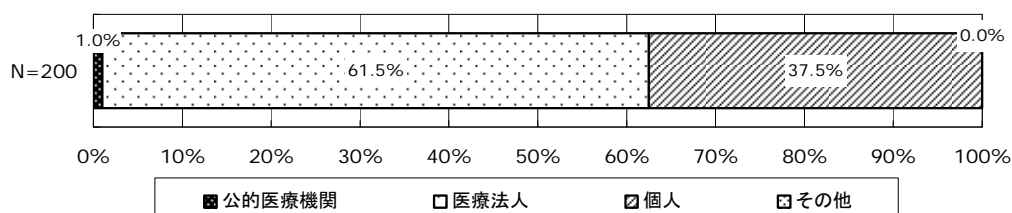
○ 地域連携診療計画管理料算定病院	
… [大腿骨頸部骨折 H20] 平均 2.58 回	※有効回答 205 件で集計
[脳卒中 H20] 平均 2.84 回	※有効回答 236 件で集計
○ 地域連携診療計画退院時指導料算定病院	
… [大腿骨頸部骨折 H20] 平均 3.11 回	※有効回答 492 件で集計
[脳卒中 H20] 平均 3.70 回	※有効回答 497 件で集計

5) 診療所調査 回答診療所

(1) 開設者

回答のあった診療所は、「医療法人」が61.5%と最も多く、次いで「個人」が37.5%である。

図表 5-1 開設者



(2) 主たる診療科

主たる診療科は、「内科」「外科」「整形外科」の順に31.6%、16.2%、14.5%であるが、地域連携診療計画退院時指導料の届出ありでは「内科」「整形外科」「外科」の順となり、「内科」34.8%、「整形外科」21.7%とこの2つの診療科で5割を超えている。

図表 5-2 主たる診療科

順位	全体 (N=117)		地域連携診療計画退院時指導料			
			届出なし (N=92)		届出あり (N=23)	
1	内科	31.6%	内科	30.4%	内科	34.8%
2	外科	16.2%	外科	17.4%	整形外科	21.7%
3	整形外科	14.5%	整形外科	13.0%	外科	13.0%
4	産婦人科	11.1%	産婦人科	12.0%	脳神経外科	8.7%
5	脳神経外科	4.3%	消化器科	4.3%	産婦人科	8.7%

(3) 医師数

回答のあった診療所では、医師数の平均が 1.7 人であり、地域連携診療計画退院時指導料の届出なしの診療所では同じ 1.7 人、届出ありでは 1.5 人とやや少ない。

図表 5-3 医師数

	全体 (N=199)	地域連携診療計画退院時指導料	
		届出なし (N=162)	届出あり (N=31)
医師数	1.7 人	1.7 人	1.5 人

(4) 稼働病床数

稼働病床数は全体で 10.4 床、うち一般病床は 8.5 床である。地域連携診療計画退院時指導料の届出なしの診療所では稼働病床数が 10.2 床、届出ありでは 12 床とやや多く、内訳をみると療養病床数が届出なしに比べ 1.6 床多い。

図表 5-4 稼働病床数

	全体 (N=82)	地域連携診療計画退院時指導料	
		届出なし (N=64)	届出あり (N=15)
稼働病床数	10.4 床	10.2 床	12.0 床
一般病床数	8.5 床	8.5 床	8.9 床
療養病床数	1.3 床	1.1 床	2.7 床
後期高齢者医療 管理料算定病床数	0.5 床	0.6 床	0.0 床

(5) 平均在院日数

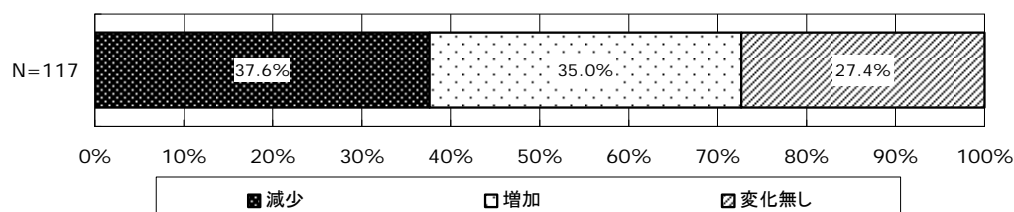
平均在院日数は全体で平成 20 年 4～6 月の 36.5 日から平成 21 年同月の 35.5 日と 1 日減少している。地域連携診療計画退院時指導料の届出なしの診療所では平均在院日数にほぼ変化無く 30 日であるが、届出ありでは平成 20 年 4～6 月に 51.3 日、平成 21 年同月では 48.8 日と 2.5 日減少している。なお、地域連携診療計画退院時指導料の届出のある診療所では、平均在院日数の増加している診療所の割合が 4 割超と大きいのが、平均在院日数が減少している診療所に比較して在院日数変化量が小さいものと想定される。

図表 5-5 平均在院日数

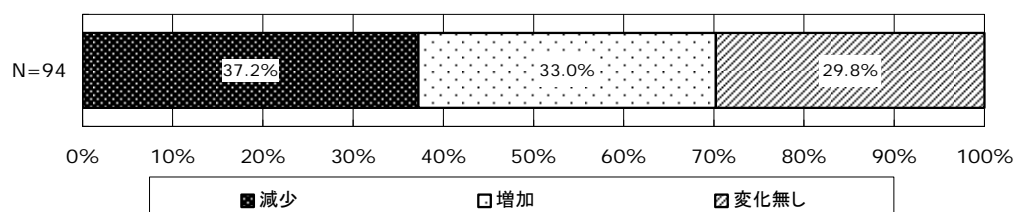
	全体 (N=118)	地域連携診療計画退院時指導料	
		届出なし (N=95)	届出あり (N=19)
平均在院日数(平成 20 年 4～6 月)	36.5 日	29.9 日	51.3 日
平均在院日数(平成 21 年 4～6 月)	35.5 日	30.0 日	48.8 日

図表 5-6 平均在院日数変化

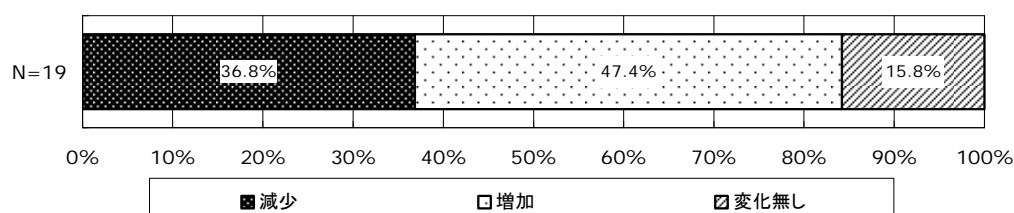
<全体>



<地域連携診療計画退院時指導料 届出なし>



<地域連携診療計画退院時指導料 届出あり>



(6) 外来患者延べ数・入院患者延べ数

外来患者延べ数の平均は全体で平成 20 年 6 月の 1616.4 人から平成 21 年同月の 1624.2 人に微増、入院患者延数は平成 20 年同月に 119.0 人、平成 21 年同月に 115.6 人と微減である。

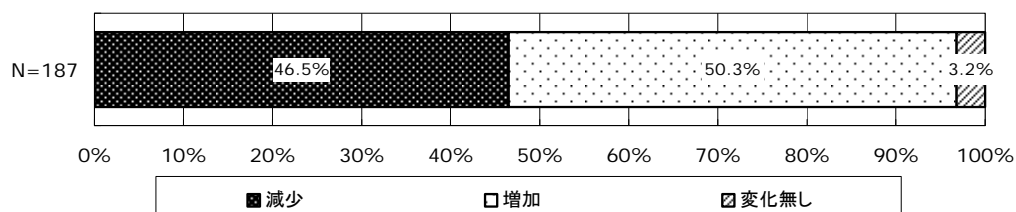
なお、地域連携診療計画退院時指導料の届出ありの診療所は、外来患者延べ数が平成 20 年 6 月に 1530.7 人、平成 21 年同月には 1674.1 人であり、143.4 人の増となっている。

図表 5-7 外来患者延べ数・入院患者延べ数

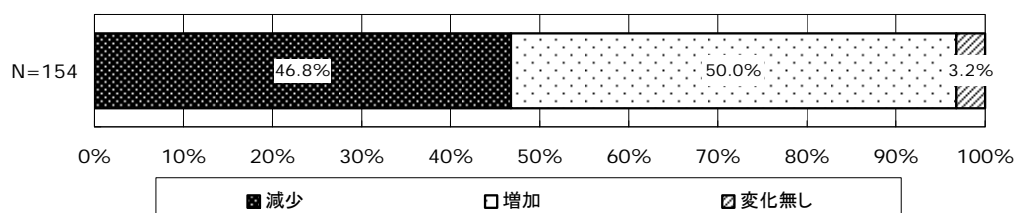
	全体 (N=164)	地域連携診療計画退院時指導料	
		届出なし (N=134)	届出あり (N=26)
外来患者延べ数(平成 20 年 6 月)	1,616.4 人	1,637.3 人	1,530.7 人
(平成 21 年 6 月)	1,624.2 人	1,621.5 人	1,674.1 人
入院患者延べ数(平成 20 年 6 月)	119.0 人	112.6 人	129.3 人
(平成 21 年 6 月)	115.6 人	108.8 人	127.0 人

図表 5-8 外来患者延べ数変化

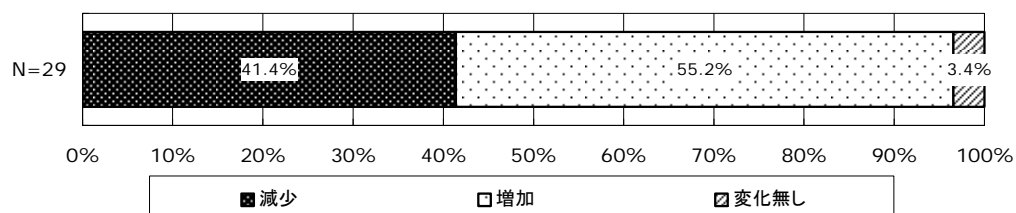
<全体>



<地域連携診療計画退院時指導料 届出なし>

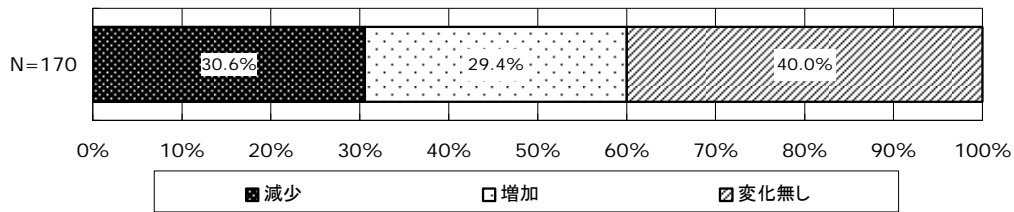


<地域連携診療計画退院時指導料 届出あり>

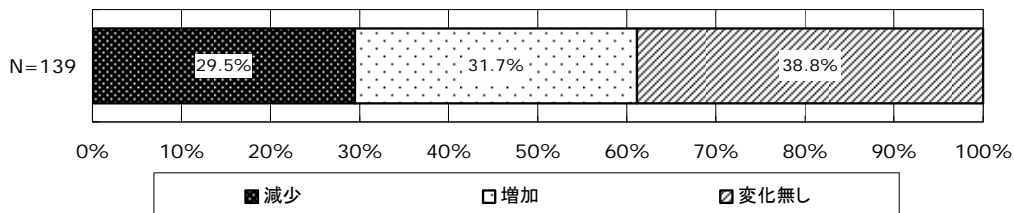


図表 5-9 入院患者延べ数変化

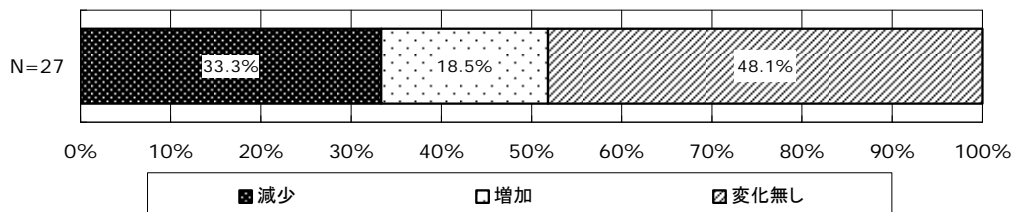
<全体>



<地域連携診療計画退院時指導料 届出なし>



<地域連携診療計画退院時指導料 届出あり>



(7) 外来患者実人数・病院からの紹介患者数

外来患者の実人数は、全体平均が 778.9 人、地域連携診療計画退院時指導料の届出なしでは 798.7 人、届出ありでは 630.0 人であり、届出ありの外来患者は少ない。また、その内訳である病院からの紹介患者数についても、全体では 5.1 人であるが、届出ありの当該人数は 4.3 人と少ない。

図表 5-10 外来患者実人数・病院からの紹介患者数

	全体 (N=142)	地域連携診療計画退院時指導料	
		届出なし (N=119)	届出あり (N=21)
外来患者数	778.9 人	798.7 人	630.0 人
病院からの紹介患者数	5.1 人	5.2 人	4.3 人

(8) 新規入院患者数・病院からの転院患者、他診療所からの紹介患者

新規入院患者数は、全体平均が 13.5 人、地域連携診療計画退院時指導料の届出なしでは 14.2 人、届出ありでは 8.1 人であり、届出ありの新規入院患者は少ない。なお、届出ありの診療所では、三次、二次救急病院からの転院患者が若干多い。

図表 5-11 新規入院患者数・病院からの転院患者、他診療所からの紹介患者

	全体 (N=84)	地域連携診療計画退院時指導料	
		届出なし (N=67)	届出あり (N=16)
新規入院患者数	13.5 人	14.2 人	8.1 人
病院からの転院患者	0.6 人	0.6 人	0.6 人
三次、二次救急病院	0.3 人	0.2 人	0.6 人
亜急性期病室を有する病院	0.1 人	0.1 人	0.0 人
回復期リハビリ病棟を有する病院	0.1 人	0.1 人	0.0 人
療養病床を有する病院	0.1 人	0.1 人	0.0 人
他診療所紹介患者	0.8 人	1.0 人	0.1 人

(9) 退院患者数・他院へ転院した患者など

退院患者数は、全体平均が 11.8 人、地域連携診療計画退院時指導料の届出なしでは 12.1 人、届出ありでは 8.7 人であり、届出ありの退院患者は少ない。なお、他院へ転院した患者については、届出ありの診療所が若干多い。

図表 5-12 退院患者数・他院へ転院した患者など

	全体 (N=85)	地域連携診療計画退院時指導料	
		届出なし (N=65)	届出あり (N=19)
退院患者数	11.8 人	12.1 人	8.7 人
他院へ転院	0.5 人	0.4 人	0.6 人
自院の外来	8.1 人	7.9 人	6.6 人
他診療所の外来	0.5 人	0.6 人	0.1 人
死亡退院	0.1 人	0.1 人	0.1 人

(10) 紹介・逆紹介の実績がある保険医療機関数

紹介・逆紹介の実績がある病院では、全体平均が 5.4 施設、地域連携診療計画退院時指導料の届出なしでは 5.8 施設、届出ありでは 3.5 施設であり、届出ありの紹介・逆紹介病院は少ない。なお、回復期リハビリ病棟を有する病院については、届出ありの診療所が若干多い。

図表 5-13 紹介・逆紹介の実績がある保険医療機関数

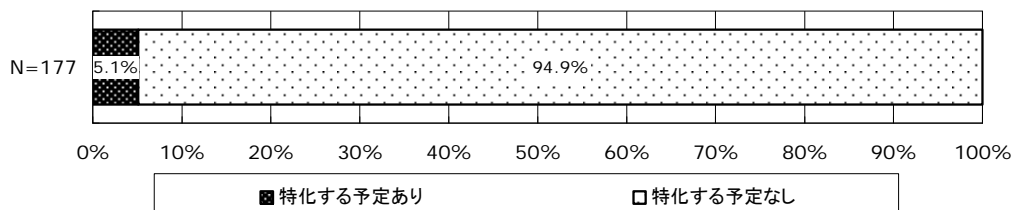
	全体 (N=68)	地域連携診療計画退院時指導料	
		届出なし (N=52)	届出あり (N=15)
病院	5.4 施設	5.8 施設	3.5 施設
三次、二次救急病院	2.7 施設	3.0 施設	1.8 施設
亜急性期病室を有する病院	0.8 施設	0.8 施設	0.7 施設
回復期リハビリ病棟を有する病院	0.6 施設	0.5 施設	0.7 施設
療養病床を有する病院	0.7 施設	0.8 施設	0.5 施設
一般診療所	6.2 施設	6.6 施設	5.1 施設

(11) 医療機能に係る今後の方針

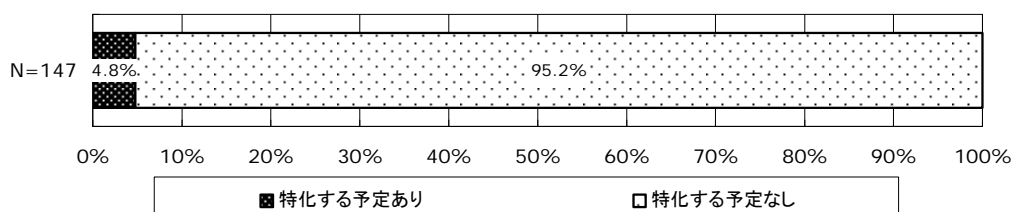
医療機能に係る今後の方針については、全体の94.9%が「特化する予定なし」である。この傾向は、地域連携診療計画退院時指導料の届出なし・届出ありともほぼ同じである。

図表 5-14 医療機能に係る今後の方針

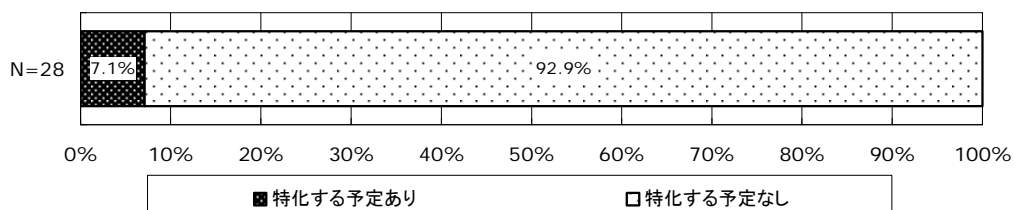
<全体>



<地域連携診療計画退院時指導料 届出なし>



<地域連携診療計画退院時指導料 届出あり>



(12) 他の医療機関との連携に関する意向

他の医療機関との連携に関しては、全体では20.7%が「増やしたい」と回答しているが、「現状のままでよい」は78.7%を占める。なお、地域連携診療計画退院時指導料の届出ありの診療所は、届出なしの所に比べ「増やしたい」が7.1%多く、26.7%を占めており、また、当該診療所の全てが「急性期医療機能」との連携をあげている。

図表 5-15 他の医療機関との連携に関する意向

	全体 (N=188)	地域連携診療計画退院時指導料	
		届出なし (N=153)	届出あり (N=30)
増やしたい	20.7%	19.6%	26.7%
急性期医療機能	94.6%	92.9%	100.0%
亜急性期医療機能	64.9%	57.1%	87.5%
回復期リハビリ機能	51.4%	42.9%	75.0%
療養機能	67.6%	64.3%	75.0%
減らしたい	0.5%	0.7%	0.0%
現状のままでよい	78.7%	79.7%	73.3%

(13) 自由回答欄意見

○閉院予定、一時閉鎖中、閉院の増加について

- ・近々にも入院、外来を中止予定である
- ・小泉内閣による制度改悪により患者数減少による業務不振による経済的悪化大である
- ・H21年1月1日より看護師不足のため病棟一時閉鎖中
- ・診療報酬改定の上、レセプトオンライン化が重なり将来に失望し、閉院する病院が増えており、かかりつけ医の減少につながっている。現場を知れば深刻なのがわかるはず
- ・零細診療所は、だんだんやりにくいし、減少するのみ

○赤字経営

- ・入院施設は従来より急性期、慢性疾患急性期に入院を要する患者のためと継続しているが経済的に全く赤字

○点数について

- ・入院料の点数は加算事項が多すぎて非常に複雑すぎる、もっと簡単にできないのだろうか（40年前は病院も診療所も同じ入院料で加算は特別食だけだった）。アンケートに就いて～患者数は今年、去年とも比較的簡単に出来るが、紹介、逆紹介の施設数はレセコンでは出ない、検査月が予め分かっていたら簡単に出来るが、算出するのに苦労する
- ・診療報酬の引き上げが基本

○クリティカルパスの問題点

- ・地域連携クリニカルパスは本地域の病院の認識は低く、患者の囲い込みが優先されており、役割分担と言う機能が定着し難い。紹介しても、その後連絡がなく行く先が解らない大学病院との乳癌クリニカルパスが構築されつつある

○産科医療の充実の必要性について

- ・周産期医療を行う上においては、小児科医をはじめ内科外科の医師必要となり男性医師による産科医療の充実と他科医師との連携は必ず必要である

6. まとめ

本調査より明らかになった点は以下の通りである。

1) 7対1入院基本料算定 回答病院

(1) 施設調査

- ・回答施設の診療報酬に係る届出状況についてみると、「褥瘡患者管理加算」が最も多く、次いで「診療録管理体制加算」「医療安全対策加算」などとなっていた【図表 2-3】。
- ・許可病床数は、1施設当たり平均 387.7 床 (N=318) であった【図表 2-5】。
- ・診療報酬に係る届出状況についてみると、「特定集中治療室管理料」42.5%が最も多く、次いで「救命救急入院料」「新生児特定集中治療室管理料」などとなっていた【図 2-6 表】。
- ・病床種別ごとの届出病床数をみると、1施設当たり平均で一般病床 362.0 床、療養病床（医療保険適用）5.7 床、療養病床（介護保険適用）1.0 床、精神病床 13.6 床、その他（感染病床・結核病床等）5.4 床 (N=318) であった【図表 2-7】。
- ・1日当たり入院患者数についてみると、平成 21 年 6 月では 1 施設当たり平均 316.8 人 (N=297) であり、前年に比較して増加傾向にあった。一方、1日当たり外来患者数をみると、平成 21 年 6 月では 1 施設当たり平均 590.0 人 (N=297) であり、前年に比較して同様に増加傾向にあった。
- ・職員数（常勤換算人数）についてみると、1施設当たり平均 605.3 人（看護師 323.1 人、准看護師 12.4 人、看護補助者 22.0 人、医師 114.9 人など）(N=274) であり、100 床当たり平均 148.9 人（看護師 78.0 人、准看護師 5.7 人、看護補助者 7.1 人、医師 22.6 人など）(N=274) などとなっていた【図表 2-8】。
- ・退院調整に関する部門の設置状況をみると、78.2%が「設置している」との回答であった【図表 2-9】。
- ・退院調整に関する部門に専従の職員配置をしている施設数について職種別の配置状況をみると、「ソーシャルワーカー（社会福祉士等）」42.6%が最も多く、次いで「看護師・保健師」「事務職員」などとなっていた【図表 2-11】。
- ・医療機能に係る今後の方針をみると、41.4%が「特化する予定である」との回答であった。医療機能を「特化する予定である」と回答した施設のうち、特化する予定の医療機能についてみると、「急性期医療機能」90.6%が最も多くなっていた【図表 2-15、図表 2-16】。
- ・連携する医療機関数に対する意向をみると、74.3%が「増やしたい」との回答であった。「増やしたい」と回答した施設のうち、連携先として増やしたい医療機能についてみると、「療養機能」42.7%が最も多く、次いで「回復期リハビリ機能」「亜急性期医療機能」などとなっていた【図表 2-19、図表 2-20】。
- ・一般病棟入院基本料算定病床における 100 床当たり 1 ヶ月間の新規の入院・転院・転棟患者数についてみると 1 施設当たり平均 169.9 人 (N=248) であり、「自宅から入院」が最も多い【図表 2-21、図表 2-22】。
- ・一般病棟入院基本料算定病床における 100 床当たり 1 ヶ月間の退院・転院・転棟患者数についてみると 1 施設当たり平均 165.6 人 (N=250) であり、「自宅へ退院」が最も多い【図表 2-23、図表 2-24】。
- ・一般病棟入院基本料算定病床における平均在院日数についてみると、平成 21 年 4～6 月の

- 3ヶ月の平均では、1施設当たり平均15.0日(N=406)であった【図表2-25】。
- ・また、同算定病床における病床利用率についてみると、平成21年4～6月の3ヶ月の平均では、1施設当たり平均78.1%(N=406)であった【図表2-26】。
 - ・一般病棟入院基本料算定病床における重症度・看護必要度の基準を満たす患者の割合についてみると、1施設当たり平均16.9%(N=392)であった。また、Aモニタリング及び処置等に係る得点の平均値をみると、1施設当たり平均1.41点、B患者の状況等に係る得点の平均値をみると、1施設当たり平均3.98点(N=335)であった【図表2-27】。

(2) 病棟調査

- ・回答病棟の病床数についてみると、1病棟当たり平均46.5床(N=1,567)であった。また、うち、一般病床数は1病棟当たり平均45.3床(N=1,567)であった。【図表2-30】
- ・1ヶ月間の一般病棟入院基本料算定病床の在院患者数についてみると、1病棟当たり平均75.1人(N=1,120)であり、入院前の居場所は「在宅」が最も多い。【図表2-32、図表2-33】
- ・平均在院日数は、平成21年4～6月の3ヶ月の平均では、1病棟当たり平均16.7日(N=1,708)であった【図表2-34】。
- ・また、病床利用率についてみると、平成21年4～6月の3ヶ月の平均では、1病棟当たり平均79.8%(N=1,708)であった【図表2-35】。
- ・一般病棟入院料算定病床に配置している看護職員数(常勤換算人数)について職種別の配置状況を見ると、1病棟当たり平均で看護師26.2人、准看護師1.0人、看護補助者2.0人(N=1,551)であった【図表2-36】。
- ・1ヶ月間の一般病棟入院基本料算定病床の退院患者数についてみると、1病棟当たり平均71.2人(N=1,145)であり、退院・転院・転棟先は「在宅」が最も多い【図表2-38、図表2-39】。
- ・重症度・看護必要度の基準を満たす患者の割合についてみると、1病棟当たり平均17.6%(N=1,648)であった。また、Aモニタリング及び処置等に係る得点の平均値をみると、1施設当たり平均1.87点、B患者の状況等に係る得点の平均値をみると、1施設当たり平均5.00点(N=1,477)であった【図表2-40】。
- ・院内の他病棟と比較した場合の重症度・看護必要度の基準を満たす患者の割合をみると、41.4%が「割合が高い傾向にある」との回答、33.4%が「割合が低い傾向にある」との回答であった。また、「割合が高い傾向にある」との回答の理由では「転科・転棟が多い」が最も多く、次いで「検査が多い」「手術が多い」などとなっていた【図表2-43】。
- ・一般病棟入院料算定病床50床当たり入院患者延べ数について、重症度・看護必要度に係る評価票の各得点ごとの延べ数を見ると、「Aモニタリング及び処置等に係る得点0～1点、B患者の状況等に係る得点0～2点」48.9%が最も多く、次いで「Aモニタリング及び処置等に係る得点0～1点、B患者の状況等に係る得点3点以上」22.9%、「Aモニタリング及び処置等に係る得点2点以上、B患者の状況等に係る得点3点以上」17.6%などとなっていた【図表2-44】。

(3) 患者調査

- ・7対1入院基本料算定病院の患者は、主傷病では「その他の消化器系の疾患」が7.5%、「その他の悪性新生物」が6.3%、「骨折」が5.0%、「肺炎」が4.5%であり、10対1入院基本料

- 算定病院では「肺炎」が7.4%であり、次いで「骨折」が5.7%である【図表 2-46】
- ・各種管理料や加算の算定状況は、7 対 1 入院基本料算定病院、10 対 1 入院基本料算定病院のいずれも「褥瘡患者管理加算」患者が約 2 割を占める【図表 2-50】
 - ・7 対 1 入院基本料算定病院の患者は、院内クリニカルパスの実施状況が 27.9%、リハビリの実施状況は 21.0%である。透析の実施状況は 2.3%と少ない。この傾向は 10 対 1 入院基本料算定病院においてもほぼ同様である【図表 2-51】。
 - ・入棟前の居場所は「在宅」が 8 割を超えている。入棟した背景は「疾病の（急性）発症（疑いを含む）のため」が 5 割を占める【図表 2-52、図表 2-53】。
 - ・入棟した理由として「手術が必要なため」が 35.1%、次いで「点滴治療が必要なため」が 34.6%と多いが、10 対 1 入院基本料算定病院の患者は「手術が必要なため」が 28.0%とやや少なく、「点滴治療が必要なため」が 40.1%と逆転している【図表 2-54】。
 - ・入棟日において、7 対 1 入院基本料算定病院の患者は、A 得点「0～1 点」が 76.2%を占め、B 得点「0～2 点」が 65.9%を占める。また、B 得点「6～12 点」の患者は 24.4%を占めている。なお、A 得点「0～1 点」かつ B 得点「0～2 点」の患者は 58.0%を占める。この傾向は 10 対 1 入院基本料算定病院の患者においてもほぼ同様である【図表 2-55】。
 - ・入棟時の状況については、「床上安静の指示」が 16.1%と最も多く、次いで「輸液ポンプの使用」が 10.5%と多い。10 対 1 入院基本料算定病院の患者においてもほぼ同様である【図表 2-57】。
 - ・入棟中の患者状況については、「手術の実施」が 38.9%を占めており、そのうち半数は全身麻酔での手術である。10 対 1 入院基本料算定病院の患者においてもほぼ同傾向である【図表 2-58】。
 - ・入棟中の最高点時において、7 対 1 入院基本料算定病院の患者は、A 得点では「0～1 点」が 46.8%、「5～10 点」は 17.6%を占め、B 得点では「0～2 点」が 41.9%、「6～12 点」が 46.4%を占める。なお、A 得点「0～1 点」かつ B 得点「0～2 点」の患者は 28.5%を占め、A 得点「5～10 点」かつ B 得点「6～12 点」の患者は 15.6%を占めている。10 対 1 入院基本料算定病院の患者においてもほぼ傾向である【図表 2-59】。
 - ・退棟時に退院支援計画書の策定があるのは 20.8%である。一方、10 対 1 入院基本料算定病院の患者は、策定ありが 17.1%とやや少ない【図表 2-61】。
 - ・退棟後の居場所では、7 対 1 入院基本料算定病院の患者も 10 対 1 入院基本料算定病院の患者も、「在宅」が 7 割を超えている【図表 2-62】。
 - ・転帰は、「軽快」が最も多く、7 対 1 入院基本料算定病院の患者で 69.2%、10 対 1 入院基本料算定病院の患者では 67.6%である。また、「治癒」「不変」はそれぞれ 1 割前後である【図表 2-63】。
 - ・退棟日において、7 対 1 入院基本料算定病院の患者は、A 得点「0～1 点」が 84.6%を占め、B 得点「0～2 点」が 74.0%を占める。また、B 得点「6～12 点」の患者は 17.8%を占めている。なお、A 得点「0～1 点」かつ B 得点「0～2 点」の患者は 68.3%を占める。この傾向は 10 対 1 入院基本料算定病院の患者においてもほぼ同様である【図表 2-64】。
 - ・退棟までの経緯としては、「入院診療計画書にある推定入院期間どおりの退棟」が 53.7%であり、次いで「病状が安定せず、退棟が延びた」が 14.4%である。この傾向は 10 対 1 入院基本料算定病院の患者においてもほぼ同様である【図表 2-66】。

2) 亜急性期入院医療管理料算定 回答病院

(1) 施設調査

- ・回答施設の亜急性期入院医療管理料の算定状況をみると、89.8%が「亜急性期入院医療管理料1」を、10.2%が「亜急性期入院医療管理料2」を算定しているとの回答であった【図表 3-1】。
- ・許可病床数についてみると、管理料1を算定している施設では1施設当たり平均 232.3 床 (N=218)、管理料2を算定している施設では1施設当たり平均 138.3 床 (N=22) であった。【図表 3-7】。
- ・病床種別ごとの届出病床数は、管理料1を算定している施設では1施設当たり平均で一般病床 191.4 床、療養病床（医療保険適用）19.1 床、療養病床（介護保険適用）5.0 床であり、管理料2を算定している施設では1施設当たり平均で一般病床 101.9 床、療養病床（医療保険適用）24.5 床、療養病床（介護保険適用）5.0 床であった【図表 3-8】。
- ・1日当たり入院患者数は、管理料1を算定している施設では平成 21 年 6 月に1施設当たり平均 177.5 人 (N=215) であり、前年と比較して減少傾向にあった。管理料2を算定している施設では同年同月に1施設当たり平均 111.3 人 (N=22) であり、前年と比較して同様に減少傾向にあった。
- ・1日当たり外来患者数は、管理料1を算定している施設では平成 21 年 6 月に1施設当たり平均 299.0 人 (N=215) であり、前年と比較して増加傾向にあった。管理料2を算定している施設では同年同月に1施設当たり平均 186.9 人 (N=22) であり、前年と比較して同様に増加傾向にあった。
- ・職員数（常勤換算人数）についてみると、管理料1を算定している施設では100床当たり平均 120.0 人（看護師 54.5 人、准看護師 9.5 人、看護補助者 11.6 人、医師 12.2 人など）(N=195)、療養管理料2を算定している施設では100床当たり平均 135.8 人（看護師 47.0 人、准看護師 15.0 人、看護補助者 18.7 人、医師 11.0 人など）(N=19) などとなっていた【図表 3-9】。
- ・退院調整に関する部門の設置状況をみると、管理料1を算定している施設では77.7%が、管理料2を算定している施設では84.8%が「設置している」との回答であった【図表 3-10】。
- ・医療機能に係る今後の方針をみると、管理料1を算定している施設では28.4%が、管理料2を算定している施設では、48.5%が「特化する予定である」との回答であった。いずれも特化する予定の医療機能では「急性期医療機能」が最も多い【図表 3-11、図表 3-12、図表 3-14、図表 3-15】。
- ・連携する医療機関数に対する意向をみると、管理料1を算定している施設では65.1%が、管理料2を算定している施設では、72.7%が「増やしたい」との回答であった。連携先として増やしたい医療機能ではいずれも「療養機能」が最も多く、次いで「急性期医療機能」「回復期リハビリ機能」などとなっていた【図表 3-18、図表 3-19】。

(2) 病棟調査

- ・回答病棟の亜急性期入院医療管理料届出病床数についてみると、亜急性期入院医療管理料1を算定している病棟では1病棟当たり平均 9.2 床 (N=307)、亜急性期入院医療管理料2を算定している病棟では1病棟当たり平均 13.5 床 (N=27) であった【図表 3-23、図表 3-25】。
- ・看護職員数（常勤換算人数）について職種別の配置状況をみると、管理料1を算定している

病棟では1病棟当たり平均で看護師 20.7 人、准看護師 3.0 人、看護補助者 3.2 人 (N=223) であり、管理料 2 を算定している病棟では看護師 15.5 人、准看護師 2.8 人、看護補助者 3.3 人 (N=17) であった【図表 3-27】。

- ・ 亜急性期病室における専任の在宅復帰支援担当者数（実人数）をみると、管理料 1 算定病棟では1病棟当たり平均 1.7 人 (N=336)、管理料 2 算定病棟では平均 1.3 人 (N=33) であり、担当者の職種をみると「ソーシャルワーカー（社会福祉士等）」が最も多い【図表 3-29、図表 3-30】。
- ・ 亜急性期病室の平均在院日数についてみると、管理料 1 を算定している病棟では、平成 21 年 4～6 月の 3 ヶ月の平均で1病棟当たり平均 34.5 日 (N=343)、管理料 2 を算定している病棟では平均 27.5 日 (N=32) であった【図表 3-31】。
- ・ 病床利用率は、管理料 1 を算定している病棟では平成 21 年 4～6 月の 3 ヶ月の平均で1病棟当たり平均 77.2% (N=343)、管理料 2 を算定している病棟では平均 81.3% (N=32) であった【図表 3-32】。
- ・ 1 ヶ月間の在室患者数についてみると、管理料 1 を算定している病棟では1病棟当たり平均 16.7 人 (N=314)、管理料 2 を算定している病棟では平均 14.5 人 (N=31) であった。また、いずれも在室患者の入室前理由については「急性期治療を経過した患者」が最も多く、入室前の居場所は「自院の 7 対 1 入院基本料等を算定している病床」が最も多い【図表 3-33～図表 3-38】。
- ・ 1 ヶ月間の退室患者数についてみると、管理料 1 を算定している病棟では1病棟当たり平均 7.1 人 (N=316)、管理料 2 を算定している病棟では平均 15.6 人 (N=29) であった。また、在室患者の退室先をみると、いずれも「在宅」が最も多い【図表 3-39～図表 3-42】。

(3) 患者調査

- ・ 亜急性期入院医療管理料 1 の患者は、主傷病では「骨折」が 31.2%、「関節症」が 9.8%、「脳梗塞」が 7.0%であり、亜急性期入院医療管理料 2 の患者もほぼ同傾向である【図表 3-43】。
- ・ 各種管理料や加算の算定状況は、亜急性期入院医療管理料 1、2 のいずれも「褥瘡患者管理加算」患者が多く、次いで「後期高齢者退院調整加算」が多い【図表 3-46】。
- ・ 亜急性期入院医療管理料 1 の患者は、院内クリニカルパスの実施状況が 15.9%、リハビリの実施状況は 86.0%である。透析の実施状況は 1.0%と小さい。亜急性期入院医療管理料 2 の患者は、リハビリの実施状況はほぼ同様であるが、院内クリニカルパスの実施状況が 29.5%と大きい【図表 3-47】。
- ・ モニタリング及び処置等の状況では、「創傷処置」が最も多く、次いで「血糖検査」「昇圧剤の使用」「口腔内吸引」などが多い。亜急性期入院医療管理料 1、2 ともにほぼ同傾向である【図表 3-49】。
- ・ 入院中の亜急性期入院医療管理料 1 の患者は A 得点「0～1 点」が 89.9%を占め、B 得点「0～2 点」が 72.7%を占める。なお、A 得点「0～1 点」かつ B 得点「0～2 点」の患者は 66.7%を占める。この傾向は管理料 2 の患者においてもほぼ同様であるが、B 得点「0～2 点」は 4%程大きい【図表 3-51】。
- ・ 亜急性期病室を退室した患者は、管理料 1 では主傷病の「骨折」が 30.7%、「関節症」9.6%、「脳梗塞」7.6%を占め、管理料 2 では「骨折」が 27.3%、「関節症」9.8%、「その他の筋骨格系及び結合組織の疾患」7.4%を占めている【図表 3-56】。

- ・亜急性期病室の退室患者にみる入室前の居場所は、いずれの管理料の患者も、6割程が「自院の急性期病床・回復期リハビリテーション病棟以外の一般病床」であり、その他は2割程が「在宅」である【図表 3-65】。
- ・亜急性期入院医療管理料 1、2 の患者の入室した背景は、6割程が「急性期治療を経過し状態が安定したため」「リハビリテーションを行うため」である【図表 3-67】。
- ・入室中の患者状況は、「床上安静の指示」が最も多く、次いで「褥瘡処置」「経管栄養」「インスリン皮下注射」などが多い【図表 3-69】。
- ・亜急性期入院医療管理料 1 の退室患者にみる入室から退室までの期間は、「1ヶ月未満」が 58.9%、管理料 2 の患者では 71.4% である。入室から退室までの平均期間は、管理料 1 の患者が 30.3 日、管理料 2 では 24.5 日である。また、両患者ともに、院内クリニカルパスの実施の有無により入室から退室までの期間がやや異なり、実施有りの場合に「1ヶ月未満」である割合がやや大きい【図表 3-72、図表 3-87】。
- ・退室先については、「在宅」が 74% 前後と最も多く、次いで 1割に満たないが「介護老人保健施設（老人保健施設）」や「自院の急性期病床・回復期リハ病棟以外の一般病床」などがある【図表 3-74】。
- ・亜急性期入院医療管理料 1、2 の患者の転帰については、8割前後が「軽快」であり、「治癒」は 1割に満たっていない【図表 3-81】。
- ・退室までの経緯は、「診療計画書にある推定入院期間どおりの退室」が最も多く、次いで「診療計画書にある推定入院期間より早く退室」が多い【図表 3-83】。

3) 地域連携診療計画管理料及び地域連携診療計画退院時指導料に係る状況

- ・回答施設の診療報酬に係る届出状況についてみると、計画管理料算定病院では「7対1入院基本料（一般病棟）」が最も多く、退院時指導料算定病院では「回復期リハビリテーション病棟入院料 1」が最も多い【図表 4-1】。
- ・計画管理病院、連携保険医療機関の施設数について、大腿骨頸部骨折に係る状況を見ると、計画管理料算定病院では連携保険医療機関として「回復期リハビリテーション病棟入院料届出施設」が最も多く、退院時指導料算定病院では計画管理病院として「7対1入院基本料（一般病棟）届出病院」が最も多い【図表 4-2】。
- ・また、脳卒中に係る状況をもみても、この傾向は同様である【図表 4-3】。
- ・地域連携診療計画管理料算定患者数について、大腿骨頸部骨折に係る状況を見ると、1施設当たり平均 30.2 人（N=156）、設定した入院期間内に連携医療機関へ転院・退院できた患者数は 1施設当たり平均 21.0 人（N=156）である。地域連携診療計画退院時指導料算定患者数については、1施設当たり平均 10.8 人（N=344）、設定した入院期間内に退院・転院できた患者数は 1施設当たり平均 8.0 人（N=344）であった。【図表 4-4、図表 4-5】。
- ・また、脳卒中に係る状況を見ると、地域連携診療計画管理料算定患者数は 1施設当たり平均 32.8 人（N=186）、設定した入院期間内に連携医療機関へ転院・退院できた患者数は 1施設当たり平均 22.7 人（N=186）である。地域連携診療計画退院時指導料算定患者数について、1施設当たり平均 13.5 人（N=361）、設定した入院期間内に退院・転院できた患者数は 1施設当たり平均 9.5 人（N=361）であった【図表 4-6、図表 4-7】。
- ・平均在院日数については、大腿骨頸部骨折に係る状況を見ると、計画管理料算定患者は平成 20 年度で 1施設当たり平均 26.4 日（N=118）、退院時指導料算定患者は平均 61.4 日（N=218）

となっており、脳卒中に係る状況をみると、計画管理料算定患者は平成 20 年度で 1 施設当たり平均 33.3 日 (N=138)、退院時指導料算定患者は平均 84.0 日 (N=226) であった【図表 4-8、図表 4-9】。

- ・地域連携診療計画に係る情報交換のための会合の開催回数については、計画管理料算定病院では、大腿骨頸部骨折で平成 20 年度に 1 施設当たり平均 2.58 回 (N=205)、脳卒中で平均 2.84 回 (N=236) となっていた。また、退院時指導料算定病院の状況では、大腿骨頸部骨折で平成 20 年度に 1 施設当たり平均 3.11 回 (N=492)、脳卒中で 1 施設当たり平均 3.70 回 (N=497) であった【図表 4-10】。

4) 診療所調査

- ・回答のあった診療所では、医師数の平均が 1.7 人であり、地域連携診療計画退院時指導料の届出なしの診療所では同じ 1.7 人、届出ありでは 1.5 人とやや少ない【図表 5-3】。
- ・稼動病床数は全体で 10.4 床、うち一般病床は 8.5 床である。地域連携診療計画退院時指導料の届出なしの診療所では稼動病床数が 10.2 床、届出ありでは 12 床とやや多い【図表 5-4】。
- ・平均在院日数は全体で平成 20 年 4~6 月の 36.5 日から平成 21 年同月期間の 35.5 日と 1 日減少している。地域連携診療計画退院時指導料の届出なしの診療所では平均在院日数にほぼ変化は無いが、届出ありではやや減少している【図表 5-5】。
- ・外来患者の実人数は、全体平均が 778.9 人、地域連携診療計画退院時指導料の届出なしでは 798.7 人、届出ありでは 630.0 人であり、届出ありの外来患者が少ない【図表 5-10】。
- ・新規入院患者数は、全体平均が 13.5 人であり、地域連携診療計画退院時指導料の届出がある場合は届出なしの場合に比べ、やや少ない。退院患者数は全体平均で 11.8 人であるが、届出の有無により同様の傾向がある【図表 5-11、図表 5-12】。
- ・紹介・逆紹介の実績がある保険医療機関数数は、全体平均が 5.4 施設、地域連携診療計画退院時指導料の届出ありの場合は紹介・逆紹介病院数がやや少ない【図表 5-13】。
- ・医療機能に係る今後の方針については、全体の 94.9%が「特化する予定なし」である。この傾向は、地域連携診療計画退院時指導料の届出なし・届出ありともにほぼ同じである【図表 5-14】。
- ・他の医療機関との連携に関しては、全体では 20.7%が「増やしたい」と回答しているが、「現状のままでよい」は 78.7%を占める。なお、地域連携診療計画退院時指導料の届出ありの診療所は、届出なしの所に比べ「増やしたい」が多く、また、当該診療所の全てが「急性期医療機能」との連携をあげている【図表 5-15】。

参 考 资 料

診療報酬改定結果検証に係る調査（平成 21 年度調査）

**7 対 1 入院基本料算定病棟に係る調査、亜急性期入院医療管理料
及び回復期リハビリテーション病棟入院料算定病院に係る調査、
並びに「地域連携クリティカルパス」に係る調査**

- 特に指定がある場合を除いて、平成21年6月1日現在の状況についてお答え下さい。
- 数値を記入する設問で、該当する者・施設等が無い場合は、「0」（ゼロ）をご記入下さい。
- 設問中の「一般病棟」は、「一般病棟入院基本料を算定している病床（特定入院料、短期滞在手術基本料が算定可能な病棟・病室を除く）」を指します。

■本調査票のご記入日・ご記入者について下表にご記入下さい。

調査票ご記入日	平成 21 年 () 月 () 日
ご記入担当者名	
連絡先電話番号	
連絡先 FAX 番号	

■貴病院の概要についてお伺いします。

問 1 貴病院の開設者として該当するものをお選びください。（○は1つ）
01 国（厚生労働省,独立行政法人国立病院機構,国立大学法人,独立行政法人労働者健康福祉機構,その他）
02 公的医療機関（都道府県,市町村,一部事務組合,日赤,済生会,北海道社会事業協会,厚生連,国民健康保険団体連合会）
03 社会保険関係団体（全国社会保険協会連合会,厚生年金事業振興団,健康保険組合,共済組合,国民健康保険組合等）
04 医療法人
05 個人
06 その他（公益法人,学校法人,社会福祉法人,医療生協,会社,その他法人）

問 2 貴病院の承認等の状況について該当するものを全てお選びください。（○はいくつでも）		
承認等の状況 （○はいくつでも）	01 高度救命救急センター	08 特定機能病院
	02 救命救急センター	09 地域医療支援病院
	03 二次救急医療機関	10 DPC 対象病院
	04 災害拠点病院	11 DPC 準備病院
	05 総合周産期母子医療センター	12 がん診療連携拠点病院
	06 地域周産期母子医療センター	13 専門病院注 1
	07 小児救急医療拠点病院	

注 1) 専門病院とは、主として悪性腫瘍、循環器疾患等の患者を入院させる保険医療機関であって高度かつ専門的な医療を行っているものとして地方厚生（支）局長に届け出たものを指す。

問3 貴病院における <u>下記の診療報酬に係る届出の状況</u> について、届出を行っているものを全てお選びください。(〇はいくつでも)		
届出の状況 (〇はいくつでも)	01 入院時医学管理加算	09 医師事務作業補助体制加算 100対1補助体制加算
	02 臨床研修病院入院診療加算1(単独型・管理型)	10 緩和ケア診療加算
	03 臨床研修病院入院診療加算2(協力型)	11 医療安全対策加算
	04 超急性期脳卒中加算	12 褥瘡患者管理加算
	05 診療録管理体制加算	13 褥瘡ハイリスク患者ケア加算
	06 医師事務作業補助体制加算 25対1補助体制加算	14 退院調整加算
	07 医師事務作業補助体制加算 50対1補助体制加算	15 後期高齢者退院調整加算
	08 医師事務作業補助体制加算 75対1補助体制加算	

問4 貴病院における平成21年6月時点の <u>下記の診療報酬に係る届出の状況</u> について、届出を行っているものを全てお選びください。(〇はいくつでも)		
	平成21年6月	
届出の状況 (〇はいくつでも)	01 一般病棟 7対1入院基本料(準7対1)	
	02 一般病棟 10対1入院基本料	
	03 回復期リハビリテーション病棟入院料1	
	04 回復期リハビリテーション病棟入院料2	
	05 亜急性期入院医療管理料1	
	06 亜急性期入院医療管理料2	

問5 貴病院の平成21年6月1日時点の <u>下記の診療報酬に係る届出の状況</u> 及び <u>届出病床数</u> についてご記入ください。			
		平成21年6月1日	
		届出状況	病床数
(1) 届出病床数 総数			床
(2) [再掲] 一般病床			床
(3) [再々掲] 一般病棟入院基本料のみ算定する病床			床
〔再掲〕 特定入院料の 届出病床	(4) ①救命救急入院料	有・無	床
	②特定集中治療室管理料	有・無	床
	③ハイケアユニット入院医療管理料	有・無	床
	④脳卒中ケアユニット入院医療管理料	有・無	床
	⑤新生児特定集中治療室管理料	有・無	床
	⑥総合周産期特定集中治療室管理料	有・無	床
	⑦小児入院医療管理料1	有・無	床
	⑧回復期リハビリテーション病棟入院料		床
	⑨亜急性期入院医療管理料		床
(5) [再掲] 療養病床(医療保険適用)	有・無		床
(6) [再々掲] 回復期リハビリテーション病棟入院料			床
(7) 療養病床(介護保険適用)	有・無		床
(8) 精神病床	有・無		床
(9) その他(感染病床・結核病床等)	有・無		床

■ 貴病院の医療提供状況についてお伺いします。

問6 貴病院の <u>外来患者延べ数</u> 、 <u>入院患者延べ数</u> 、 <u>全身麻酔手術件数</u> 、 <u>他の医療機関からの患者紹介比率</u> について、平成20年6月及び平成21年6月の総数をご記入ください。				
	平成20年6月		平成21年6月	
(1) 外来患者延べ数		人		人
(2) 入院患者延べ数		人		人
(3) 全身麻酔（静脈麻酔は除く）手術件数		件		件
(4) 他の保険医療機関等からの紹介率 ^{注1}		%		%

注1) 紹介率の算出方法

紹介率は、下記のように算出して小数第二位を切り捨て、小数第一位までを記入。

$$\text{紹介率} = \frac{\text{紹介患者の数} + \text{緊急的に入院し治療を必要とした救急患者の数}}{\text{初診患者の数}} \times 100$$

- 紹介患者の数：別の保険医療機関等から文書により紹介等された患者数（特別の関係にある保険医療機関等から紹介等された患者を除く）
- 初診患者の数：休日・夜間に受診した救急患者（緊急的に入院し、治療を必要とした救急患者の数を除く）を除く初診患者の総数

問7 貴病院の平成21年6月1日時点で雇用している <u>職員数</u> をご記入ください。		
	平成21年6月1日	
	常勤	非常勤 (常勤換算 ^{注2})
(1) 看護師	人	. 人
(2) [再掲] 一般病棟 ^{注1} における看護師	人	. 人
(3) 准看護師	人	. 人
(4) [再掲] 一般病棟 ^{注1} における准看護師	人	. 人
(5) 看護補助者	人	. 人
(6) [再掲] 一般病棟 ^{注1} における看護補助者	人	. 人
(7) 医師	人	. 人
(8) 薬剤師	人	. 人
(9) 理学療法士	人	. 人
(10) 作業療法士	人	. 人
(11) 言語聴覚士	人	. 人
(12) 診療放射線技師	人	. 人
(13) 臨床検査技師	人	. 人
(14) 臨床工学技士	人	. 人
(15) ソーシャルワーカー（社会福祉士等）	人	. 人
(16) 事務職員	人	. 人

注1) 設問中の「一般病棟」は、「一般病棟入院基本料を算定している病床（特定入院料の届出を行っている病棟・病室を除く）」を指す。

注2) 非常勤職員の常勤換算の算出方法

貴院の1週間の所定労働時間を基本として、下記のように常勤換算して小数第一位まで（小数点第二位を切り上げ）を記入。

例：1週間の通常の勤務時間が40時間の病院で、週4日（各日5時間）勤務の看護師が1人いる場合

$$\text{非常勤看護師数} = \frac{4日 \times 5時間 \times 1人}{40時間} = 0.5人$$

問8 貴病院は <u>大腿骨頸部骨折及び脳卒中に係る地域連携診療計画管理料</u> 、 <u>地域連携診療計画退院時指導料の届出</u> をされていますか。該当する選択肢番号に○をお付けください。		
(1) 地域連携診療計画管理料（○は1つ）	01 届出なし	02 届出あり
(2) 地域連携診療計画退院時指導料（○は1つ）	01 届出なし	02 届出あり

問8において、地域連携診療計画管理料あるいは地域連携診療計画退院時指導料のいずれかについて「02 届出あり」と回答された場合には、以下の問9～12にもご回答ください。

いずれかについても「01 届出なし」と回答された場合には、問13へお進みください。

■貴病院の地域連携診療計画管理料、地域連携診療計画退院時指導料に係る状況についてお伺いします。

問 9 貴病院が大腿骨頸部骨折及び脳卒中に係る地域連携診療計画管理料、地域連携診療計画退院時指導料の届出に平成 21 年 6 月現在に記載されている計画管理病院、連携保険医療機関の施設数をご記入ください。			
大腿骨頸部骨折		平成 21 年 6 月	
	(1) 計画管理病院	施設	
	(2) [再掲] 7 対 1 入院基本料 (一般病棟) 届出病院 (準 7 対 1 入院基本料も含む)	施設	
	(3) [再掲] 10 対 1 入院基本料 (一般病棟) 届出病院	施設	
	(4) [再掲] 13 対 1 入院基本料 (一般病棟) 届出病院	施設	
	(5) [再掲] 15 対 1 入院基本料 (一般病棟) 届出病院	施設	
	(6) [再掲] 療養病棟入院基本料届出病院	施設	
	連携保険医療機関	(7) 病院	施設
		(8) [再掲] 7 対 1 入院基本料 (一般病棟) 届出病院 (準 7 対 1 入院基本料も含む)	施設
		(9) [再掲] 10 対 1 入院基本料 (一般病棟) 届出病院	施設
		(10) [再掲] 13 対 1 入院基本料 (一般病棟) 届出病院	施設
		(11) [再掲] 15 対 1 入院基本料 (一般病棟) 届出病院	施設
		(12) [再掲] 療養病棟入院基本料届出病院	施設
		(13) [再掲] 回復期リハビリテーション病棟入院料届出施設	施設
		(14) [再掲] 亜急性期入院医療管理料届出施設	施設
(15) 有床診療所	施設		
脳卒中		平成 21 年 6 月	
	(16) 計画管理病院	施設	
	(17) [再掲] 7 対 1 入院基本料 (一般病棟) 届出病院 (準 7 対 1 入院基本料も含む)	施設	
	(18) [再掲] 10 対 1 入院基本料 (一般病棟) 届出病院	施設	
	(19) [再掲] 13 対 1 入院基本料 (一般病棟) 届出病院	施設	
	(20) [再掲] 15 対 1 入院基本料 (一般病棟) 届出病院	施設	
	(21) [再掲] 療養病棟入院基本料届出病院	施設	
	連携保険医療機関	(22) 病院	施設
		(23) [再掲] 7 対 1 入院基本料 (一般病棟) 届出病院 (準 7 対 1 入院基本料も含む)	施設
		(24) [再掲] 10 対 1 入院基本料 (一般病棟) 届出病院	施設
		(25) [再掲] 13 対 1 入院基本料 (一般病棟) 届出病院	施設
		(26) [再掲] 15 対 1 入院基本料 (一般病棟) 届出病院	施設
		(27) [再掲] 療養病棟入院基本料届出病院	施設
		(28) [再掲] 回復期リハビリテーション病棟入院料届出施設	施設
(29) [再掲] 亜急性期入院医療管理料届出施設	施設		
(30) 有床診療所	施設		

問 10 貴病院における平成 20 年度の大腿骨頸部骨折及び脳卒中の地域連携診療計画に係る情報交換のための計画管理病院・連携保険医療機関との会合の開催回数をご記入ください。		
	平成 20 年度	
(1) 大腿骨頸部骨折の地域連携診療計画に係る情報交換のための会合の開催回数	回	
(2) 脳卒中の地域連携診療計画に係る情報交換のための会合の開催回数	回	

問 11 貴病院における平成 19 年度・平成 20 年度の大腿骨頸部骨折及び脳卒中による入院患者数、さらに、平成 20 年度における地域連携診療計画管理料、または地域連携診療計画退院時指導料の算定患者数をご記入ください。			
		平成 19 年度	平成 20 年度
		大腿骨頸部骨折	(1) 大腿骨頸部骨折による入院患者数
(2) [再掲] 地域連携診療計画管理料を算定した患者数			人
(3) [再々掲] 設定した入院期間内に連携医療機関へ転院・退院できた患者数			人
(4) [再々掲] 連携医療機関から診療情報がフィードバックされた患者数			人
(5) [再掲] 地域連携診療計画退院時指導料を算定した患者数			人
(6) [再々掲] 設定した入院期間内に退院・転院できた患者数			人
脳卒中	(7) 脳卒中による入院患者数	人	人
	(8) [再掲] 地域連携診療計画管理料を算定した患者数		人
	(9) [再々掲] 設定した入院期間内に連携医療機関へ転院・退院できた患者数		人
	(10) [再々掲] 連携医療機関から診療情報がフィードバックされた患者数		人
	(11) [再掲] 地域連携診療計画退院時指導料を算定した患者数		人
	(12) [再々掲] 設定した入院期間内に退院・転院できた患者数		人

問 12 貴病院における平成 19 年度及び平成 20 年度の大腿骨頸部骨折及び脳卒中の患者等の平均在院日数をご記入ください。			
		平成 19 年度	平成 20 年度
		大腿骨頸部骨折	(1) 大腿骨頸部骨折による入院患者の平均在院日数
(2) [再掲] 地域連携診療計画管理料算定患者の平均在院日数	. 日		. 日
(3) [再掲] 地域連携診療計画退院時指導料算定患者の平均在院日数	. 日		. 日
脳卒中	(4) 脳卒中による入院患者の平均在院日数	. 日	. 日
	(5) [再掲] 地域連携診療計画管理料算定患者の平均在院日数	. 日	. 日
	(6) [再掲] 地域連携診療計画退院時指導料算定患者の平均在院日数	. 日	. 日

注) 平均在院日数は、小数点第二位を切り捨て小数点第一位までを記入。

■貴病院における他の医療機関との連携体制についてお伺いします。

問 13 貴病院には、 <u>退院調整に関する部門</u> はございますか。該当する選択肢番号に○をお付けください。(○は1つ)			
なお、部門がある場合は、当該部門にて退院調整業務を専従、専任で行っている職員に区分し、平成 21 年 6 月 1 日時点で雇用している <u>それぞれの実人員数</u> をご記入ください。			
退院調整に関する部門の設置状況	設置状況(「01 有」の場合、部門の職種別実人員数)		
	01 無	02 有 →	
			専従 ^{注1}
			専任 ^{注2}
		01 医師	人
		02 看護師・保健師	人
		03 ソーシャルワーカー(社会福祉士等)	人
		04 事務職員	人
		05 その他()	人

注 1) 専従とは、当該部門の業務のみに従事している者をいう。

注 2) 専任とは、当該部門での業務とその他の部署等での業務を兼務している者をいう(例: 午前の 3 時間は当該部門の退院調整に関する業務に従事するが、午後の 5 時間は病棟での診療業務に従事する者等を指す)。

■貴病院の医療機能に係る今後の方針についてお伺いします。

問 14 貴病院の医療機能に係る今後の方針について該当するものをお選びください。

(1) 貴病院では特定の医療機能（急性期医療機能や療養機能など）への特化を予定されていますか（○は1つ）

<p>01 特化する予定である</p> <p>▶① 今後、特化する予定の医療機能はどれですか。（○は1つ）</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>01 急性期医療機能</td> <td>03 療養機能</td> </tr> <tr> <td>02 回復期リハビリ機能</td> <td>04 その他（ ）</td> </tr> </table> <p>▶② 今後、亜急性期医療機能を導入、拡充する予定はありますか。（○は1つ）</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>01 導入、拡充する予定がある</td> <td>02 導入、拡充する予定はない</td> </tr> </table>	01 急性期医療機能	03 療養機能	02 回復期リハビリ機能	04 その他（ ）	01 導入、拡充する予定がある	02 導入、拡充する予定はない	<p>02 特化する予定はない</p>
01 急性期医療機能	03 療養機能						
02 回復期リハビリ機能	04 その他（ ）						
01 導入、拡充する予定がある	02 導入、拡充する予定はない						

(2) (1) の方針の理由についてご記入ください。

【自由回答】

■貴病院の今後の医療機関との連携に関する意向についてお伺いします。

問 15 貴病院における紹介・逆紹介をはじめとする他の医療機関との連携に関する意向について、該当するものをお選びください。

(1) 貴病院では他の医療機関との連携についてどのような意向をお持ちですか（○は1つ）

01 特に他の医療機関と連携するつもりはない
02 同一法人内の他の医療機関と連携をとる
03 同一法人か否かは問わず、地域の他の医療機関と連携をとる

(2) 貴病院では連携する医療機関数についてどのような意向をお持ちですか（○は1つ）

01 増やしたい	02 減らしたい	03 現状のままでよい	
▶①今後の連携先として増やしたい医療機能はどれですか。また、その医療機能を持つ医療機関は地域に十分にありますか。（○はいくつでも）			
01 急性期医療機能	02 亜急性期医療機能	03 回復期リハビリ機能	04 療養機能
↓	↓	↓	↓
01 地域に十分にある	01 地域に十分にある	01 地域に十分にある	01 地域に十分にある
02 地域に十分でない	02 地域に十分でない	02 地域に十分でない	02 地域に十分でない
03 地域に全くない	03 地域に全くない	03 地域に全くない	03 地域に全くない
04 不明	04 不明	04 不明	04 不明

(3) (1) 及び (2) の方針の理由についてご記入ください。

【自由回答】

■最後に、本調査に関連した事項でご意見等がございましたら、下欄に自由にお書き下さい。

診療報酬改定結果検証に係る調査（平成 21 年度調査）

7 対 1 入院基本料算定病棟に係る調査、亜急性期入院医療管理料及び回復期リハビリテーション病棟入院料算定病院に係る調査、並びに「地域連携クリティカルパス」に係る調査

- 特に指定がある場合を除いて、平成21年6月1日現在の状況についてお答え下さい。
- 数値を記入する設問で、該当する者・施設等が無い場合は、「0」(ゼロ)をご記入下さい。
- 設問中の「一般病棟」は、「一般病棟入院基本料を算定している病床(特定入院料の届出を行っている病棟・病室を除く)」を指します。なお、一般病棟と結核病棟を併せて1看護単位として入院基本料の届出をしている場合には、結核病棟における値も含んでお答え下さい。

■本調査票のご記入日・ご記入者について下表にご記入下さい。

調査票ご記入日	平成 21 年 () 月 () 日
ご記入担当者名	
連絡先電話番号	
連絡先 FAX 番号	

■貴病院の一般病棟についてお伺いします。

問 1 貴病院で「一般病棟入院基本料を算定している病床（特定入院料の届出を行っている病棟・病室を除く）」（以下、一般病棟という。）についてお伺いいたします。平成 20 年 6 月及び平成 21 年 6 月の一般病棟における新規の入院・転院・転棟患者数及び退院・転院・転棟患者数、平均在院日数、病床利用率をご記入ください。

	平成 20 年 6 月	平成 21 年 6 月
(1) 新規の入院・転院・転棟患者数 ^{注1}	人	人
(2) 退院・転院・転棟患者数 ^{注2}	人	人
(3) 平均在院日数 ^{注3} (平成 20 年 4~6 月及び平成 21 年 4~6 月の 3 ヶ月の平均)	日	日
(4) 病床利用率 ^{注4} (平成 20 年 4~6 月及び平成 21 年 4~6 月の 3 ヶ月の平均)	%	%

注 1) 新規の入院・転院・転棟患者数：平成 20 年 6 月及び平成 21 年 6 月の以下の「入院」、「転院」、「転棟」の定義に該当する新規患者数の合計

- 入院：自宅又は医療機関でない施設からの新規入院患者数
- 転院：他医療機関からの新規転院患者数
- 転棟：現在算定している入院基本料とは異なる病棟からの新規転棟患者数（例：回復期リハビリテーション入院料届出病床から一般病棟入院基本料へと移動した場合には 1 とするが、一般病棟入院基本料内での移動については 0 とする。）

注 2) 退院・転院・転棟患者数：平成 20 年 6 月及び平成 21 年 6 月の以下の「退院」、「転院」、「転棟」の定義に該当する患者数の合計

- 退院：自宅又は医療機関ではない施設に移動した患者数
- 転院：他医療機関に移動した患者数
- 転棟：現在算定している入院基本料とは異なる病棟に移動した場合のみの患者数（例：一般病棟入院基本料から回復期リハビリテーション入院料届出病床へと移動した場合には 1 とするが、一般病棟入院基本料内での移動については 0 とする。）

注 3) 平均在院日数の算出方法

下記のように平成 20 年 4 月～6 月、平成 21 年 4 月～6 月のそれぞれ 3 カ月の平均在院日数を算出して、小数点第 2 位を切り上げ、小数第一位までを記入。

$$\text{平均在院日数} = \frac{4 \text{ 月} \sim 6 \text{ 月の在院患者延数}}{(4 \sim 6 \text{ 月の新規の入院} \cdot \text{転院} \cdot \text{転棟患者数} + 4 \sim 6 \text{ 月の退院} \cdot \text{転院} \cdot \text{転棟患者数}) \times 0.5}$$

注 4) 病床利用率の算出方法

下記のように平成 20 年 4 月～6 月、平成 21 年 4 月～6 月のそれぞれ 3 カ月の病床利用率を算出して、小数点第 2 位を四捨五入して、小数第一位までを記入。

$$\text{病床利用率} = \frac{4 \text{ 月} \sim 6 \text{ 月の在院患者延数}}{(\text{月間日数} \times \text{月末病床数}) \text{ の } 4 \text{ 月} \sim 6 \text{ 月の合計}}$$

問2 貴病院の平成21年6月における一般病棟の新規の入院・転院・転棟患者数について、院内他病棟からの転棟と院外からの入院、転院を区別してご記入ください。また、一般病棟の退院・転院・転棟患者数について、院内他病棟への転棟と院外への退院、転院を区別してご記入ください。							
	新規の入院・転院・転棟患者数				退院・転院・転棟患者数		
	院内の一般病棟以外の病床から転棟	院外から			院内の一般病棟以外の病床へ転棟	院外へ	
	他医療機関から転院	医療機関でない施設から入院	自宅から入院	他医療機関へ転院		医療機関でない施設へ退院	自宅へ退院
一般病棟	人	人	人	人	人	人	人

一般病棟入院基本料で7対1入院基本料を算定している医療機関、あるいはその他の入院基本料を算定している医療機関で「一般病棟用の重症度・看護必要度に係る調査票」により評価を行っている医療機関は、以下の問3～5にもご回答ください。

上記以外の医療機関については、次頁の最後の自由回答の設問へお進みください。

■一般病棟における「一般病棟用の重症度・看護必要度に係る調査票」による評価状況についてお伺いします。

問3 貴病院の一般病棟における重要度・看護必要度の基準を満たす患者の割合をご記入ください。			
	平成20年6月	平成21年6月	
(1) 重要度・看護必要度の基準を満たす患者の割合 (②/①) 注1	%	%	

注1) 重症度・看護必要度の基準を満たす患者の割合の算出方法

貴病院における下記の①、②の数値から、②/①により割合を算出し、小数点第二位以下切り捨てて小数点第一位までを記入。

① 入院患者延べ数

入院患者延べ数とは、算出期間中に一般病棟入院基本料を算定している延べ患者数をいう。なお、産科及び小児科の患者数は含めない。

② ①のうち重症度・看護必要度の基準を満たす患者の延べ数

「一般病棟用の重症度・看護必要度に係る評価票」を用いて評価を行い、Aモニタリング及び処置等に係る得点が「2点以上」、かつ、B患者の状況等に係る得点が「3点以上」である患者をいう。なお、産科及び小児科の患者数は含めない。

問4 貴病院の一般病棟において、「一般病棟用の重症度・看護必要度に係る評価票」を用いて評価を行った患者のAモニタリング及び処置等に係る得点、B患者の状況等に係る得点について、平成21年6月の平均値、各得点ごとの入院患者延べ数をご記入ください。						
						平成21年6月
(1) 一般病棟におけるAモニタリング及び処置等に係る得点の平均値注1						点
(2) 一般病棟におけるB患者の状況等に係る得点の平均値注1						点
(3) 「一般病棟用の重症度・看護必要度に係る評価票」の各得点ごとの入院患者延べ数注2						
		B患者の状況等に係る得点				
		0～2点	3点	4点	5点	6～12点
置等に係る得点	0～1点	人	人	人	人	人
	2点	人	人	人	人	人
	3点	人	人	人	人	人
	4点	人	人	人	人	人
	5～10点	人	人	人	人	人

注1) 平均値は、小数点第三位を四捨五入して小数点第二位まで算出する。

注2) 入院患者延べ数とは、算出期間中に一般病棟入院基本料を算定している延べ患者数をいう。なお、患者数に産科及び小児科の患者数は含めない。

なお、問4の「一般病棟用の重症度・看護必要度に係る評価票」につきましては、別途、任意のご協力のお願いがございます。同封いたしました実施要領をご参照の上、ご協力頂ければ幸いです。

問5 貴病院の平成21年6月1日時点の一般病棟入院基本料を算定している病床を有する病棟数についてご記入ください。		
	平成21年6月1日	
一般病棟入院基本料を算定している病床を有する病棟数		病棟

問6 貴病院における一般病棟入院基本料を算定している病床(特定入院料、短期滞在手術基本料が算定可能な病棟・病室を除く)を有する個別の病棟について**病棟別の患者状態像の違い**をお伺いいたします。
 個別の病棟毎(産科及び小児科病棟は除く)に平成21年6月の一般病棟における重要度・看護必要度の基準を満たす患者の割合^{注1}を算出し、割合が最も高い病棟から3ヶ所と最も低い病棟から3ヶ所について、**病棟名と平成21年6月の重要度・看護必要度の基準を満たす患者の割合**をご記入ください。

	順位	コード	病棟名 例：4階東病棟、4W病棟等	重要度・看護必要度の基準を満たす患者の割合 ^{注1} (②/①)	
				平成21年6月	
(1) 割合の高い病棟から3ヶ所	1	A1			%
	2	A2			%
	3	A3			%
(2) 割合の低い病棟から3ヶ所	1	B1			%
	2	B2			%
	3	B3			%

注1) 重症度・看護必要度の基準を満たす患者の割合の算出方法

各病棟における下記の①、②の数値から、②/①により割合を算出し、小数点第二位以下切り捨てで小数点第一位までを記入。

① 入院患者延べ数

入院患者延べ数とは、算出期間中に一般病棟入院基本料を算定している延べ患者数をいう。なお、産科及び小児科の患者数は含めない。

② ①のうち重症度・看護必要度の基準を満たす患者の延べ数

「一般病棟用の重症度・看護必要度に係る評価票」を用いて評価を行い、Aモニタリング及び処置等に係る得点が「2点以上」、かつ、B患者の状況等に係る得点が「3点以上」である患者をいう。なお、産科及び小児科の患者数は含めない。

注) 貴病院の個別の病棟数が5ヶ所以下の場合は、コードA1の上の空欄から順に、全ての病棟についてご記入ください。

■最後に、本調査に関連した事項でご意見等がございましたら、下欄に自由にお書き下さい。

設問は以上です。ご協力誠に有り難うございました。

ご記入いただきました調査票は、ご配布いただきました施設長もしくは事務部門の責任者の方にお渡しください。

なお、同封いたしました「病棟票(一般病棟用)」につきましては、問6でご記入いただいたA1～A3、B1～B3の各病棟へ配布していただき、各病棟の看護師長に記載をご依頼いただきたく存じます。

お手数をおかけし、誠に恐縮ではございますが、何卒宜しくお願い申し上げます。

診療報酬改定結果検証に係る調査（平成 21 年度調査）

**7 対 1 入院基本料算定病棟に係る調査、亜急性期入院医療管理料
及び回復期リハビリテーション病棟入院料算定病院に係る調査、
並びに「地域連携クリティカルパス」に係る調査**

- 特に指定がある場合を除いて、平成21年6月1日現在の状況についてお答え下さい。
- 数値を記入する設問で、該当する者・施設等が無い場合は、「0」（ゼロ）をご記入下さい。
- 設問中の「一般病棟」は、「一般病棟入院基本料を算定している病床（特定入院料の届出を行っている病棟・病室を除く）」を指します。

一般病棟名	A 1
-------	-----

■本調査票の一般病棟名・ご記入日・ご記入者について下表にご記入下さい。

調査票ご記入日	平成 21 年 () 月 () 日
ご記入担当者名	

■貴病棟の概要についてお伺いします。

問 1 貴病棟の診療科目について該当する主なものを 3 つ以内でお選びください。01～36 に定める診療科目以外を標榜している場合には、最も近似する診療科名をお選びください。（○は 3 つまで）

01 内科	10 アレルギー科	19 小児外科	28 性病科
02 呼吸器科	11 リウマチ科	20 産婦人科	29 こう門科
03 消化器科（胃腸科）	12 外科	21 産科	30 リハビリテーション科
04 循環器科	13 整形外科	22 婦人科	31 放射線科
05 小児科	14 形成外科	23 眼科	32 麻酔科
06 精神科	15 美容外科	24 耳鼻いんこう科	33 歯科
07 神経科	16 脳神経外科	25 気管食道科	34 矯正歯科
08 神経内科	17 呼吸器外科	26 皮膚科	35 小児歯科
09 心療内科	18 心臓血管外科	27 泌尿器科	36 歯科口腔外科

問 2 貴病棟で算定している診療報酬として該当するものを全てお選びください。（○はいくつでも）

貴病棟で算定している診療報酬	01 一般病棟 7 対 1 入院基本料（準 7 対 1） 02 一般病棟 10 対 1 入院基本料 03 亜急性期入院医療管理料 1 04 亜急性期入院医療管理料 2
----------------	--

問 3 貴病棟の届出病床数について、平成 21 年 6 月 1 日の時点の総数と内訳をご記入ください。

	平成 21 年 6 月	
(1) 届出病床数 総数		床
(2) [再掲] 一般病床		床
(3) [再々掲] 亜急性期入院医療管理料届出病床		床
(4) [再々掲] (3) 以外の特定入院料の届出病床		床

■貴病棟のうち、一般病棟入院基本料を算定している病床の概況についてお伺いします。以下の設問では、特定入院料の届出を行っている病棟・病室を除いた、「一般病棟入院基本料を算定している病床」の状況に限ってご回答ください。

問4 貴病棟の一般病棟入院基本料を算定している病床に入院している患者について、平成21年6月時点で入院中の人数及び入院前の居場所別の人数をご記入ください。 なお、二次医療圏の地域的範囲については、同封の二次医療圏資料をご参照ください。		平成21年6月	
(1) 在院患者数		人	
(2) [再掲] 自院の急性期病床 ^{注1}		人	
(3) [再掲] 自院のその他の病床		人	
(4) [再掲] 他病院	貴院と同じ二次医療圏	人	
	県内の他の二次医療圏	人	
	県外	人	
(5) [再掲] 有床診療所	貴院と同じ二次医療圏	人	
	県内の他の二次医療圏	人	
	県外	人	
(6) [再掲] 介護老人保健施設・介護老人福祉施設	貴院と同じ二次医療圏	人	
	県内の他の二次医療圏	人	
	県外	人	
(7) [再掲] その他居住系サービス ^{注2} 等の施設	貴院と同じ二次医療圏	人	
	県内の他の二次医療圏	人	
	県外	人	
(8) [再掲] 在宅		人	
(9) [再掲] その他		人	

注1) 急性期病床とは、救命救急入院料、特定集中治療室管理料、ハイケアユニット入院医療管理料、脳卒中ケアユニット入院医療管理料、新生児特定集中治療室管理料、総合周産期特定集中治療室に係る届出病床を指す。

注2) 居住系サービスとは、グループホーム、有料老人ホーム・軽費老人ホーム、高齢者専用賃貸住宅を指す。

問5 貴病棟の一般病棟入院基本料を算定している病床における平均在院日数、病床利用率について、平成20年4～6月及び平成21年4～6月の数値をご記入ください。		平成20年4～6月	平成21年4～6月
(1) 平均在院日数 ^{注1}	. 日	. 日	
(2) 病床利用率 ^{注2}	%	%	

注1) 平均在院日数の算出方法

下記のように平成20年4月～6月、平成21年4月～6月のそれぞれ3カ月の平均在院日数を算出して、小数点第2位を切り上げ、小数第一位までを記入。

$$\text{平均在院日数} = \frac{\text{4月～6月の在院患者延数}}{\text{(4～6月の新規入院患者数(転院・転棟による患者を含む) + 4～6月の退院患者数(転院・転棟を含む))} \times 0.5}$$

注2) 病床利用率の算出方法

下記のように平成20年4月～6月、平成21年4月～6月のそれぞれ3カ月の病床利用率を算出して、小数点第2位を四捨五入して、小数第一位までを記入。

$$\text{病床利用率} = \frac{\text{4月～6月の在院患者延数}}{\text{(月間日数} \times \text{月末病床数) の4月～6月の合計}}$$

問6 貴病棟の一般病棟入院基本料を算定している病床に配置している 看護師、准看護師、看護補助者の人数 をご記入ください。なお、非常勤職員については、一週間当たりの勤務状況から算出した常勤換算後の人数をご記入ください。		
	常 勤	非常勤（常勤換算 ^{注1} ）
(1) 看護師	人	. 人
(2) 准看護師	人	. 人
(3) 看護補助者	人	. 人

注1) 非常勤職員の常勤換算の算出方法

貴院の1週間の所定労働時間を基本として、下記のように常勤換算して小数第一位まで（小数点第二位を切り上げ）を記入。

例：1週間の通常の勤務時間が40時間の病院で、週4日（各日5時間）勤務の看護師が1人いる場合

$$\text{非常勤看護師数} = \frac{4日 \times 5時間 \times 1人}{40時間} = 0.5人$$

問7 貴病棟の一般病棟入院基本料を算定している病床において、 専従・専任している職種別の職員数 をご記入ください。なお、専任職員については、一週間当たりの勤務状況から算出した常勤換算後の人数をご記入ください。		
	専 従 ^{注1}	専 任 ^{注1} （常勤換算 ^{注2} ）
(1) 薬剤師	人	. 人
(2) 理学療法士	人	. 人
(3) 作業療法士	人	. 人
(4) ソーシャルワーカー	人	. 人
(5) 事務職員	人	. 人

注1) 専従とは、貴病棟の業務のみに従事している者をいう。専任とは、貴病棟での業務とその他の部署等での業務を兼務している者をいう（例：午前の3時間は貴病棟の薬剤管理業務に従事するが、午後の5時間は薬剤部門での調剤業務に従事する者等を指す）。

注2) 専任（他部署の業務を兼務している）職員の常勤換算の算出方法

貴病棟の1週間の所定労働時間を基本として、下記のように常勤換算して小数第一位まで（小数点第二位を切り上げ）を記入。

例：1週間の通常の勤務時間が40時間の病院で、貴病棟に週2日（各日3時間）勤務の薬剤師が1人と、週3日（各日5時間）勤務の薬剤師が2人いる場合

$$\text{専任薬剤師数} = \frac{(2日 \times 3時間 \times 1人) + (3日 \times 5時間 \times 2人)}{40時間} = 0.9人$$

問8 貴病棟の一般病棟入院基本料を算定している病床における平成21年6月の退院患者（転棟・転院を含む）について、 退院・転院・転棟先別の人数 をご記入ください。なお、二次医療圏の地域的範囲については、同封の二次医療圏資料をご参照ください。		平成21年6月
(1) 退院患者数（転院・転棟を含む）		人
(2) [再掲] 自院の回復期リハ病棟		人
(3) [再掲] 自院の亜急性期病室		人
(4) [再掲] 自院の(2)～(3)以外の一般病棟		人
(5) [再掲] 自院の(2)以外の療養病棟		人
(6) [再掲] 自院の(2)～(5)以外の病棟		人
(7) [再掲] 他病院	貴院と同じ二次医療圏	人
	県内の他の二次医療圏	人
	県 外	人
(8) [再掲] 有床診療所	貴院と同じ二次医療圏	人
	県内の他の二次医療圏	人
	県 外	人
(9) [再掲] 介護老人保健施設・介護老人福祉施設	貴院と同じ二次医療圏	人
	県内の他の二次医療圏	人
	県 外	人
(10) [再掲] その他居住系サービス ^{注1} 等の施設	貴院と同じ二次医療圏	人
	県内の他の二次医療圏	人
	県 外	人
(11) [再掲] 在宅		人
(12) [再掲] その他		人

注1) 居住系サービスとは、グループホーム、有料老人ホーム・軽費老人ホーム、高齢者専用賃貸住宅を指す。

■貴病棟の一般病棟入院基本料を算定している病床における「一般病棟用の重症度・看護必要度に係る調査票」による評価状況についてお伺いします。

問9 貴病棟の一般病棟入院基本料を算定している病床における**重要度・看護必要度の基準を満たす患者の割合**をご記入ください。

	平成20年6月	平成21年6月
(1) 重要度・看護必要度の基準を満たす患者の割合 (②/①) ^{注1}	%	%

注1) 重症度・看護必要度の基準を満たす患者の割合の算出方法

貴病院における下記の①、②の数値から、②/①により割合を算出し、小数点第二位以下切り捨てで小数点第一位までを記入。

① 入院患者延べ数

入院患者延べ数とは、算出期間中に一般病棟入院基本料を算定している延べ患者数をいう。なお、産科及び小児科の患者数は含めない。

② ①のうち重症度・看護必要度の基準を満たす患者の延べ数

「一般病棟用の重症度・看護必要度に係る評価票」を用いて評価を行い、Aモニタリング及び処置等に係る得点が「2点以上」、かつ、B患者の状況等に係る得点が「3点以上」である患者をいう。なお、産科及び小児科の患者数は含めない。

問10 貴病棟の一般病棟入院基本料を算定している病床において、「一般病棟用の重症度・看護必要度に係る評価票」を用いて評価を行った患者の**Aモニタリング及び処置等に係る得点、B患者の状況等に係る得点**について、平成21年6月の**平均値、各得点ごとの入院患者延べ数**をご記入ください。

		平成21年6月				
(1) 一般病棟におけるAモニタリング及び処置等に係る得点の平均値 ^{注1}		点				
(2) 一般病棟におけるB患者の状況等に係る得点の平均値 ^{注1}		点				
(3) 「一般病棟用の重症度・看護必要度に係る評価票」の各得点ごとの入院患者延べ数 ^{注2}		B患者の状況等に係る得点				
		0～2点	3点	4点	5点	6～12点
置等に係る得点	Aモニタリング及び処	0～1点	人	人	人	人
		2点	人	人	人	人
		3点	人	人	人	人
		4点	人	人	人	人
		5～10点	人	人	人	人

注1) 平均値は、小数点第三位を四捨五入して小数点第二位まで算出する。

注2) 入院患者延べ数とは、算出期間中に入院基本料を算定している延べ患者数をいう。なお、患者数に産科及び小児科の患者数は含めない。

問11 貴病棟の一般病棟入院基本料を算定している病床（特定入院料、短期滞在手術基本料が算定可能な病棟・病室を除く）における重症度・看護必要度の基準を満たす患者の割合について、**院内の他の病棟と比較した場合の状況の認識**として該当するものをお選び下さい。

(1) 貴病棟における重症度・看護必要度の基準を満たす患者の割合の院内他病棟との比較 (○は1つ)
01 割合が高い傾向にある 02 割合が低い傾向にある 03 どちらともいえない
(2) (1)の理由として該当するものを全てお選びください。(○はいくつでも)
01 手術が多い (少ない) 03 検査が多い (少ない) 05 高齢者が多い (少ない) 02 処置が多い (少ない) 04 転科・転棟が多い (少ない) 06 入退院が多い (少ない)
【(1)の理由を具体的に記入ください】

■最後に、本調査に関連した事項でご意見等がございましたら、下欄に自由にお書き下さい。

設問は以上です。ご協力誠に有り難うございました。

ご記入いただきました調査票は、病棟患者票とあわせて、ご配布いただきました施設長もしくは事務部門の責任者の方にお渡しください。

診療報酬改定結果検証に係る調査（平成 21 年度調査）

7対1入院基本料算定病棟に係る調査、亜急性期入院医療管理料及び回復期リハビリテーション病棟入院料算定病院に係る調査、並びに「地域連携クリティカルパス」に係る調査

A1	一般病棟名	
----	-------	--

← 注「施設票（看護部長用）」問6に記入されたA1病棟

- 調査対象患者は、平成21年6月1日午前0時以降に上記病棟を退棟（＝退院・転院・転棟）された患者とし、退棟時間の早い順に4名をお選びください。なお、平成21年6月1日に退棟された患者が4名に満たない場合は、同年6月2日の退棟患者から、それでも不足する場合には順に3日、4日と対象日を進め、順次、患者をお選びください。
- 質問票は、患者1名に対して「A 患者の基本的事項」「B 入棟時の患者状況」「C 入院（入棟）中の患者状況」「D 退棟時の患者状況」をお訊ねしております。可能な範囲でご回答ください。

■ 質問票

○以下、「入棟」とは上記病棟への入院あるいは(上記病棟以外の病棟からの)転棟を意味します。

A 患者の基本的事項

1	発症年月日	昭和・平成 ____年 ____月 ____日			
2	入棟年月日	平成 ____年 ____月 ____日			
3	入棟期間中に診断された主傷病と副傷病	(別紙の参考1「疾病コード表」より該当番号(退院時サマリの主傷病欄等に記入された傷病)を選択)			
		①主傷病(1つ)	_____	②副傷病(2つまで)	_____
4	診療科(1つ選択)	_____ (別紙の参考2「診療科コード表」より該当番号を選択)			
5	性別	1 男性	2 女性	6 年齢	(6月1日現在) _____ 歳
7	①世帯構成	1 単独世帯 2 同居有り世帯			
	②キーパーソン	1 有り 2 無し			
	③続柄 (②有りの場合)	1 配偶者	4 父母または配偶者の父母	7 兄弟姉妹	
		2 子	5 孫	8 他の親族	
		3 子の配偶者	6 祖父母	9 その他	
8	入棟期間中の算定状況	①地域連携診療計画管理料	1 有 2 無	④褥瘡ハイリスク患者ケア加算	1 有 2 無
		②地域連携診療計画退院時指導料	1 有 2 無	⑤退院調整加算	1 有 2 無
		③褥瘡患者管理加算	1 有 2 無	⑥後期高齢者退院調整加算	1 有 2 無
9	院内クリニカルパスの使用状況	1 有り →	①バリエーションの状況	1 有り 2 無し	
		2 無し	(入院期間に関するものに限る。検査の変更等のバリエーションは含まない。)		
10	リハビリテーションの実施状況	1 有り →	①リハビリの種類 (複数選択可)	1 心大血管疾患	4 呼吸器
				2 脳血管疾患等	5 摂食機能療法
				3 運動器	6 集団コミュニケーション
		②リハビリ開始日	平成 ____年 ____月 ____日		
		③リハビリ頻度	週 ____ 単位		
11	透析の実施状況	1 有り →	①透析開始日	昭和・平成 ____年 ____月 ____日	
			②透析の方法	1 血液透析 2 腹膜透析	
		2 無し			

B 入棟時の患者状況

1	入棟前の居場所 (1つ選択)	1 在宅	10 7～9以外の他院の他の病床 ^{注2}
		2 自院の急性期病床 ^{注1}	11 介護老人保健施設 (老人保健施設)
2	入棟した背景 (1つ選択)	3 自院の回復期リハビリテーション病棟	12 介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)
		4 2～3以外の自院の一般病床	13 グループホーム
3	入棟した理由 (複数選択可)	5 2～3以外の自院の療養病床	14 有料老人ホーム・軽費老人ホーム (ケアハウス)
		6 2～5以外の自院の他の病床 ^{注2}	15 高齢者専用賃貸住宅
4	入棟日の「一般病棟用の重症度・看護必要度に係る評価票」における「A.モニタリング及び処置等」の得点	7 他院の回復期リハビリテーション病棟	16 障害者支援施設
		8 7以外の他院の一般病床	17 その他
5	入棟日の「B.患者の状況等」の得点	9 7以外の他院の療養病床	
		1 疾病の(急性)発症(疑いを含む)のため	2 疾病の(急性)増悪のため
6	入棟時の患者のその他の状況等	3 疾病の急性期状態が安定したため	4 継続的な高度の医療管理が必要なため
		5 継続的なリハビリが必要なため	6 在宅でも対応できるが家族等の受け入れ体制が整わないため
7	入棟した理由(複数選択可)	7 介護保険施設等でも対応できるが空きがないため	8 本人・家族が希望するため
		9 その他(自由記入欄)	
8	入棟日の「A.モニタリング及び処置等」の得点	1 創傷処置	点
		2 創傷処置	点
9	入棟時の患者のその他の状況等	3 時間尿測定	点
		4 呼吸ケア	点
10	入棟した理由(複数選択可)	5 点滴ライン同時3本以上	点
		6 心電図モニター	点
11	入棟日の「B.患者の状況等」の得点	7 シリンジポンプの使用	点
		8 輸血や血液製剤の使用	点
12	入棟時の患者のその他の状況等	9 専門的な治療・処置	点
		①抗悪性腫瘍剤の使用	1有 2無
13	入棟日の「A.モニタリング及び処置等」の得点	②麻薬注射薬の使用	1有 2無
		③放射線治療	1有 2無
14	入棟した理由(複数選択可)	④免疫抑制剤の使用	1有 2無
		⑤昇圧剤の使用	1有 2無
15	入棟日の「B.患者の状況等」の得点	⑥抗不整脈剤の使用	1有 2無
		⑦ドレナージの管理	1有 2無
16	入棟時の患者のその他の状況等	⑧ドレナージの管理	1有 2無
		⑨人工呼吸器の装着	1有 2無
17	入棟した理由(複数選択可)	⑩床上安静の指示	1有 2無
		⑪口腔清潔	点
18	入棟日の「A.モニタリング及び処置等」の得点	⑫食事摂取	点
		⑬衣服の着脱	点
19	入棟時の患者のその他の状況等	⑭移動	点
		⑮中心静脈圧測定(中心静脈ライン)	1有 2無
20	入棟した理由(複数選択可)	⑯中心静脈圧測定(中心静脈ライン)	1有 2無
		⑰点滴治療等が必要なため	7 その他(自由記入欄)

注1) 急性期病床とは、救命救急入院料、特定集中治療室管理料、ハイケアユニット入院医療管理料、脳卒中ケアユニット入院医療管理料、新生児特定集中治療室管理料、総合周産期特定集中治療室に係る届出病床を指す。

注2) 他の病床とは、結核病床・精神病床・感染症病床を指す。

C 入院(入棟)中の患者状況

1	手術の実施 (該当する直近の手術について)	1 有り →	①全身麻酔(静脈麻酔除く)	1 有り	2 無し
		2 無し		↓(「有り」の場合②③記入)	
2	侵襲性の高い検査の実施 (該当する直近の検査について)	1 有り →	②手術名		
		2 無し	③手術年月日	平成 ____年 ____月 ____日	
3	侵襲性の高い処置の実施 (該当する直近の処置について)	1 有り →	①主な検査(血管造影等)		
		2 無し	②実施年月日	平成 ____年 ____月 ____日	
4	侵襲性の高い処置の実施 (該当する直近の処置について)	1 有り →	①主な処置(胸腔穿刺等)		
		2 無し	②実施年月日	平成 ____年 ____月 ____日	

4	「一般病棟用の重症度・看護必要度に係る評価票」の合計点数が最高点 ^注 の時の状況				
	1) 年月日	平成 ____年 ____月 ____日			
	2) A モニタリング及び処置等	1) 創傷処置	点	9) 専門的な治療・処置	点
		2) 血圧測定	点	①抗悪性腫瘍剤の使用	1有 2無
		3) 時間尿測定	点	②麻薬注射薬の使用	1有 2無
		4) 呼吸ケア	点	③放射線治療	1有 2無
		5) 点滴ライン同時3本以上	点	④免疫抑制剤の使用	1有 2無
		6) 心電図モニター	点	⑤昇圧剤の使用	1有 2無
		7) シリンジポンプの使用	点	⑥抗不整脈剤の使用	1有 2無
		8) 輸血や血液製剤の使用	点	⑦ドレナージの管理	1有 2無
	3) B 患者の状況等	1) 寝返り	点	5) 口腔清潔	点
		2) 起き上がり	点	6) 食事摂取	点
3) 座位保持		点	7) 衣服の着脱	点	
4) 移乗		点			

注) 最高点の日が複数日あった場合には、最初に最高点となった日とする。

D 退棟時の患者状況

1	退棟年月日	平成 21年 6月 ____日			
2	退院支援計画書の策定	1 有り 2 無し			
3	退棟後の居場所 (1つ選択)	1 在宅 2 自院の急性期病床 ^{注1} 3 自院の回復期リハビリテーション病棟 4 2～3以外の自院の一般病床 5 2～3以外の自院の療養病床 6 2～5以外の自院の他の病床 ^{注2} 7 他院の回復期リハビリテーション病棟 8 7以外の他院の一般病床 9 7以外の他院の療養病床 10 7～9以外の他院の他の病床 ^{注2} 11 介護老人保健施設(老人保健施設) 12 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム) 13 グループホーム、有料老人ホーム等 14 高齢者専用賃貸住宅 15 障害者支援施設 16 死亡 17 その他			
4	転帰	1 治癒 2 軽快 3 不変 4 悪化 5 死亡 6 その他()			
5	退棟日の「一般病棟用の重症度・看護必要度に係る評価票」における「A.モニタリング及び処置等」の得点	1) 創傷処置	点	9) 専門的な治療・処置	点
		2) 血圧測定	点	①抗悪性腫瘍剤の使用	1有 2無
		3) 時間尿測定	点	②麻薬注射薬の使用	1有 2無
		4) 呼吸ケア	点	③放射線治療	1有 2無
		5) 点滴ライン同時3本以上	点	④免疫抑制剤の使用	1有 2無
		6) 心電図モニター	点	⑤昇圧剤の使用	1有 2無
		7) シリンジポンプの使用	点	⑥抗不整脈剤の使用	1有 2無
		8) 輸血や血液製剤の使用	点	⑦ドレナージの管理	1有 2無
6	退棟日の「B.患者の状況等」の得点	1) 寝返り	点	5) 口腔清潔	点
		2) 起き上がり	点	6) 食事摂取	点
		3) 座位保持	点	7) 衣服の着脱	点
		4) 移乗	点		
7	退棟までの経緯 (1つ選択)	1 入院診療計画書にある推定入院期間より早く退棟 2 入院診療計画書にある推定入院期間どおりの退棟 3 病状が安定せず、退棟が延びた 4 入所・転院する施設の都合で、退棟が延びた 5 退棟先である在宅で、家族等の受入れ体制が整わず、退棟が延びた 6 退棟先である在宅での介護保険サービスの利用開始待ちのため、退棟が延びた 7 その他(自由記入欄)			

注1) 急性期病床とは、救命救急入院料、特定集中治療室管理料、ハイケアユニット入院医療管理料、脳卒中ケアユニット入院医療管理料、新生児特定集中治療室管理料、総合周産期特定集中治療室に係る届出病床を指す。

注2) 他の病床とは、結核病床・精神病床・感染症病床を指す。

＜参考1＞疾病コード表 (ICD-10 2003年版を準用)

主傷病コード (001~120)		
I 感染症及び寄生虫症 001 腸管感染症 002 結核 003 主として性的伝播様式をとる感染症 004 皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス疾患 005 ウイルス肝炎 006 その他のウイルス疾患 007 真菌症 008 感染症及び寄生虫症の続発・後遺症 009 その他の感染症及び寄生虫症	041 屈折及び調節の障害 042 その他の眼及び付属器の疾患 VIII 耳及び乳様突起の疾患 043 外耳炎 044 その他の外耳疾患 045 中耳炎 046 その他の中耳及び乳様突起の疾患 047 メニエール病 048 その他の内耳疾患 049 その他の耳疾患	XII 皮膚及び皮下組織の疾患 085 皮膚及び皮下組織の感染症 086 皮膚炎及び湿疹 087 その他の皮膚及び皮下組織の疾患 XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患 088 炎症性多発性関節障害 089 関節症 090 脊椎障害 (脊椎症を含む) 091 椎間板障害 092 頸腕症候群 093 腰痛症及び坐骨神経痛 094 その他の脊柱障害 095 肩の傷害<損傷> 096 骨の密度及び構造の障害 097 その他の筋骨格系及び結合組織の疾患 XIV 腎尿路生殖系の疾患 098 糸球体疾患及び腎尿管間質性疾患 099 腎不全 100 尿路結石症 101 その他の腎尿路系の疾患 102 前立腺肥大 (症) 103 その他の男性生殖器の疾患 104 月経障害及び閉経周辺期障害 105 乳房及びその他の女性生殖器疾患
II 新生物 010 胃の悪性新生物 011 結腸の悪性新生物 012 直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物 013 肝及び肝内胆管の悪性新生物 014 気管、気管支及び肺の悪性新生物 015 乳房の悪性新生物 016 子宮の悪性新生物 017 悪性リンパ腫 018 白血病 019 その他の悪性新生物 020 良性新生物及びその他の新生物	IX 循環器系の疾患 050 高血圧性疾患 051 虚血性心疾患 052 その他の心疾患 053 くも膜下出血 054 脳内出血 055 脳梗塞 056 脳動脈硬化 (症) 057 その他の脳血管疾患 058 動脈硬化 (症) 059 痔核 060 低血圧 (症) 061 その他の循環器系の疾患	XV 妊娠、分娩及び産じょく 106 流産 107 妊娠高血圧症候群 108 単胎自然分娩 109 その他の妊娠、分娩及び産じょく XVI 周産期に発生した病態 110 妊娠及び胎児発育に関連する障害 111 その他の周産期に発生した病態 XVII 先天奇形、変形及び染色体異常 112 心臓の先天奇形 113 その他の先天奇形、変形及び染色体異常 XVIII 症状、徴候等で他に分類されないもの 114 症状、徴候等で他に分類されないもの XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響 115 骨折 116 頭蓋内損傷及び内臓の損傷 117 熱傷及び腐食 118 中毒 119 その他の損傷及びその他の外因の影響
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害 021 貧血 022 その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	X 呼吸器系の疾患 062 急性鼻咽頭炎 [かぜ] <感冒> 063 急性咽頭炎及び急性扁桃炎 064 その他の急性上気道感染症 065 肺炎 066 急性気管支炎及び急性細気管支炎 067 アレルギー性鼻炎 068 慢性副鼻腔炎 069 急性又は慢性と明示されない気管支炎 070 慢性閉塞性肺疾患 071 喘息 072 その他の呼吸器系の疾患	XVIII 症状、徴候等で他に分類されないもの 114 症状、徴候等で他に分類されないもの XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響 115 骨折 116 頭蓋内損傷及び内臓の損傷 117 熱傷及び腐食 118 中毒 119 その他の損傷及びその他の外因の影響
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患 023 甲状腺障害 024 糖尿病 025 その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	XI 消化器系の疾患 073 う蝕 074 歯肉炎及び歯周疾患 075 その他の歯及び歯の支持組織の障害 076 胃潰瘍及び十二指腸潰瘍 077 胃炎及び十二指腸炎 078 アルコール性肝疾患 079 慢性肝炎 (アルコール性のものを除く) 080 肝硬変 (アルコール性のものを除く) 081 その他の肝疾患 082 胆石症及び胆のう炎 083 膵疾患 084 その他の消化器系の疾患	XVIII 症状、徴候等で他に分類されないもの 114 症状、徴候等で他に分類されないもの XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響 115 骨折 116 頭蓋内損傷及び内臓の損傷 117 熱傷及び腐食 118 中毒 119 その他の損傷及びその他の外因の影響
V 精神及び行動の障害 026 血管性及び詳細不明の認知症 027 精神作用物質使用による精神及び行動の障害 028 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害 029 気分 [感情] 障害 (躁うつ病を含む) 030 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害 031 知的障害 (精神遅滞) 032 その他の精神及び行動の障害	VI 神経系の疾患 033 パーキンソン病 034 アルツハイマー病 035 てんかん 036 脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群 037 自律神経系の障害 038 その他の神経系の疾患	XVIII 症状、徴候等で他に分類されないもの 114 症状、徴候等で他に分類されないもの XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響 115 骨折 116 頭蓋内損傷及び内臓の損傷 117 熱傷及び腐食 118 中毒 119 その他の損傷及びその他の外因の影響
VII 眼及び付属器の疾患 039 結膜炎 040 白内障	IX 消化器系の疾患 073 う蝕 074 歯肉炎及び歯周疾患 075 その他の歯及び歯の支持組織の障害 076 胃潰瘍及び十二指腸潰瘍 077 胃炎及び十二指腸炎 078 アルコール性肝疾患 079 慢性肝炎 (アルコール性のものを除く) 080 肝硬変 (アルコール性のものを除く) 081 その他の肝疾患 082 胆石症及び胆のう炎 083 膵疾患 084 その他の消化器系の疾患	XVIII 症状、徴候等で他に分類されないもの 114 症状、徴候等で他に分類されないもの XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響 115 骨折 116 頭蓋内損傷及び内臓の損傷 117 熱傷及び腐食 118 中毒 119 その他の損傷及びその他の外因の影響

＜参考2＞診療科コード表

01 内科	10 アレルギー科	19 小児外科	28 性病科
02 呼吸器科	11 リウマチ科	20 産婦人科	29 こう門科
03 消化器科 (胃腸科)	12 外科	21 産科	30 リハビリテーション科
04 循環器科	13 整形外科	22 婦人科	31 放射線科
05 小児科	14 形成外科	23 眼科	32 麻酔科
06 精神科	15 美容外科	24 耳鼻いんこう科	33 歯科
07 神経科	16 脳神経外科	25 気管食道科	34 矯正歯科
08 神経内科	17 呼吸器外科	26 皮膚科	35 小児歯科
09 心療内科	18 心臓血管外科	27 泌尿器科	36 歯科口腔外科

注) 01~36 に定める診療科目以外を標榜している場合には、最も近似する診療科名をお選びください。

診療報酬改定結果検証に係る調査（平成 21 年度調査）

7 対 1 入院基本料算定病棟に係る調査、亜急性期入院医療管理料
及び回復期リハビリテーション病棟入院料算定病院に係る調査、
並びに「地域連携クリティカルパス」に係る調査

- 特に指定がある場合を除いて、平成21年6月1日現在の状況についてお答え下さい。
- 数値を記入する設問で、該当する者・施設等が無い場合は、「0」（ゼロ）をご記入下さい。

亜急性期病室を有する病棟名

■本調査票の一般病棟名・ご記入日・ご記入者について下表にご記入下さい。

調査票ご記入日	平成 21 年 () 月 () 日
ご記入担当者名	

■貴病棟の概要についてお伺いします。

問 1 亜急性期病室を有する貴病棟で算定している診療報酬として該当するものを全てお選びください。

貴病棟で算定している診療報酬	01 一般病棟 7 対 1 入院基本料（準 7 対 1）
	02 一般病棟 10 対 1 入院基本料
	03 亜急性期入院医療管理料 1
	04 亜急性期入院医療管理料 2

問 2 亜急性期病室を有する貴病棟の届出病床数について、平成 20 年 6 月時点及び平成 21 年 6 月時点の総数と内訳をご記入ください。

	平成 20 年 6 月	平成 21 年 6 月
(1) 病棟病床数 総数	床	床
(2) [再掲] 亜急性期入院医療管理料 1 届出病床	床	床
(2) [再掲] 亜急性期入院医療管理料 2 届出病床	床	床

問 3 亜急性期病室を有する貴病棟に配置している看護師、准看護師、看護補助者の人数をご記入ください。なお、非常勤職員については、一週間当たりの勤務状況から算出した常勤換算後の人数をご記入ください。

	常勤	非常勤 (常勤換算 ^{注1})
(1) 看護師	人	人
(2) 准看護師	人	人
(3) 看護補助者	人	人

注 1) 非常勤職員の常勤換算の算出方法

貴院の 1 週間の所定労働時間を基本として、下記のように常勤換算して小数第一位まで（小数点第二位を切り上げ）を記入。
例：1 週間の通常の勤務時間が 40 時間の病院で、週 4 日（各日 5 時間）勤務の看護師が 1 人いる場合

$$\text{非常勤看護師数} = \frac{4 \text{日} \times 5 \text{時間} \times 1 \text{人}}{40 \text{時間}} = 0.5 \text{人}$$

問4 亜急性期病室を有する貴病棟において、 専従・専任している職種別の職員数 をご記入ください。なお、専任職員については、一週間当たりの勤務状況から算出した常勤換算後の人数をご記入ください。		
	専 従 ^{注1}	専 任 (常勤換算 ^{注2})
(1) 薬剤師	人	. 人
(2) 理学療法士	人	. 人
(3) 作業療法士	人	. 人
(4) ソーシャルワーカー (社会福祉士等)	人	. 人
(5) 事務職員	人	. 人

注1) 専従とは、貴病棟の業務のみに従事している者をいう。専任とは、貴病棟での業務とその他の部署等での業務を兼務している者をいう (例：午前の3時間は貴病棟の薬剤管理業務に従事するが、午後の5時間は薬剤部門での調剤業務に従事する者等を指す)。

注2) 専任 (他部署の業務を兼務している) 職員の常勤換算の算出方法

貴病院の1週間の所定労働時間を基本として、下記のように常勤換算して小数第一位まで (小数点第二位を切り上げ) を記入。

例：1週間の通常の勤務時間が40時間の病院で、貴病棟に週2日 (各日3時間) 勤務の薬剤師が1人と、週3日 (各日5時間) 勤務の薬剤師が2人いる場合

$$\text{専任薬剤師数} = \frac{(2 \text{日} \times 3 \text{時間} \times 1 \text{人}) + (3 \text{日} \times 5 \text{時間} \times 2 \text{人})}{40 \text{時間}} = 0.9 \text{人}$$

■貴病棟の有する亜急性期病室の概況についてお伺いします。

問5 亜急性期病室における専任の在宅復帰支援担当者について、平成21年6月の 担当者数、職種 をご記入ください。	
	平成21年6月
(1) 専任の在宅復帰支援担当者数	人
(2) 専任の在宅復帰支援担当者の職種 (〇はいくつでも)	
01 医師	03 ソーシャルワーカー (社会福祉士等)
02 看護師・保健師	04 事務職員
	05 その他 (_____)

問6 亜急性期病室における 平均在院日数、病床利用率 について、平成20年4~6月及び平成21年4~6月の数値をご記入ください。		
	平成20年4~6月	平成21年4~6月
(1) 平均在院日数 ^{注1}	. 日	. 日
(2) 病床利用率 ^{注2}	. %	. %

注1) 平均在院日数の算出方法

下記のように平成20年4月~6月、平成21年4月~6月のそれぞれ3カ月の平均在院日数を算出して、小数点第2位を切り上げ、小数第一位までを記入。

$$\text{平均在院日数} = \frac{\text{4月~6月の在院患者延数}}{(\text{4~6月の新規入室患者数} + \text{4~6月の退室患者数}) \times 0.5}$$

注2) 病床利用率の算出方法

下記のように平成20年4月~6月、平成21年4月~6月のそれぞれ3カ月の病床利用率を算出して、小数点第2位を四捨五入して、小数第一位までを記入。

$$\text{病床利用率} = \frac{\text{4月~6月の在院患者延数}}{(\text{月間日数} \times \text{月末病床数}) \text{の4月~6月の合計}}$$

問7 亜急性期病室の入室患者 について、平成20年6月及び平成21年6月の時点で 在室中の人数 、 7対1入院基本料等から転床又は転院してきた入院患者数の割合等 をご記入ください。			
	平成20年6月	平成21年6月	
(1) 在室患者数	人	人	
(2) 7対1入院基本料等から転床又は転院してきた入院患者数の割合 ^{注1)}	%	%	

注1) 「7対1入院基本料等から転床又は転院してきた入院患者数の割合」とは、「亜急性期入院医療管理届出病床の入院患者数」に占める「7対1入院基本料、準7対1入院基本料、10対1入院基本料を算定している病棟（一般病棟入院基本料、特定機能病院入院基本料及び専門病院入院基本料に限る）、入院時医学管理加算、救命救急入院料、特定集中治療室管理料、ハイケアユニット入院医療管理料並びに脳卒中ケアユニット入院医療管理料のいずれかを算定している病床から転床又は転院してきた患者であり、かつ当該病室に入室した時点で、疾患の主たる治療の開始日より3週間以内である患者数」の割合を指す。

問8 亜急性期病室に 平成21年6月時点で在室中の患者 について、 入室理由別の人数 をご記入ください。		
	平成21年6月	
(1) 急性期治療を経過した患者	人	
(2) 在宅・介護施設等からの患者であって症状の急性増悪した患者	人	
(3) その他	人	

問9 亜急性期病室に 平成21年6月時点で在室中の患者 について、 入室前の居場所別の人数 をご記入ください。 なお、二次医療圏の地域的範囲については、同封の二次医療圏資料をご参照ください。			
		平成21年6月	
(1) 自院の7対1入院基本料等 ^{注1)} を算定している病床		人	
(2) 自院のその他の病床		人	
(3) 他病院の7対1入院基本料等 ^{注1)} を算定している病床	貴院と同じ二次医療圏	人	
	県内の他の二次医療圏	人	
	県外	人	
(4) 他病院のその他の病床	貴院と同じ二次医療圏	人	
	県内の他の二次医療圏	人	
	県外	人	
(5) 有床診療所	貴院と同じ二次医療圏	人	
	県内の他の二次医療圏	人	
	県外	人	
(6) 介護老人保健施設・介護老人福祉施設	貴院と同じ二次医療圏	人	
	県内の他の二次医療圏	人	
	県外	人	
(7) その他居住系サービス ^{注2)} 等の施設	貴院と同じ二次医療圏	人	
	県内の他の二次医療圏	人	
	県外	人	
(8) 在宅		人	
(9) その他		人	

注1) 「7対1入院基本料等」とは、「7対1入院基本料、準7対1入院基本料、10対1入院基本料を算定している病棟（一般病棟入院基本料、特定機能病院入院基本料及び専門病院入院基本料に限る）、入院時医学管理加算、救命救急入院料、特定集中治療室管理料、ハイケアユニット入院医療管理料並びに脳卒中ケアユニット入院医療管理料のいずれかを算定している病床」を指す。

注2) 居住系サービスとは、グループホーム、有料老人ホーム・軽費老人ホーム、高齢者専用賃貸住宅を指す。

問 10 亜急性期病室における平成 20 年 6 月及び平成 21 年 6 月の退室患者数、退院患者のうち他の保険医療機関へ転院した者等を除く者の割合をご記入ください。			
	平成 20 年 6 月	平成 21 年 6 月	
(1) 退室患者数 ^{注1}	人	人	
(2) 退院患者のうち、他の保険医療機関へ転院した者等を除く者の割合	%	%	

注 1) 退室患者数：以下の「転室」「転棟」「転院」「退院」の用語の定義に該当する患者数の合計

- 転室：亜急性期病室から当該病棟の一般病床に移動した人数
- 転棟：別の病棟に移動した人数
- 転院：別の医療機関に移動した人数
- 退院：自宅又は医療機関ではない施設に移動した人数

問 11 亜急性期病室の退室患者数について、平成 21 年 6 月の退室先別の人数をご記入ください。
なお、二次医療圏の地域的範囲については、同封の二次医療圏資料をご参照ください。

		平成 21 年 6 月	
(1) 自院の回復期リハ病棟		人	
(2) 自院の (1) 以外の一般病棟		人	
(3) 自院の (1) 以外の療養病棟		人	
(4) 自院の (1) ~ (3) 以外の病棟		人	
(5) 他病院	貴院と同じ二次医療圏	人	
	県内の他の二次医療圏	人	
	県 外	人	
(6) 有床診療所	貴院と同じ二次医療圏	人	
	県内の他の二次医療圏	人	
	県 外	人	
(7) 介護老人保健施設・介護老人福祉施設	貴院と同じ二次医療圏	人	
	県内の他の二次医療圏	人	
	県 外	人	
(8) その他居住系サービス ^{注1} 等の施設	貴院と同じ二次医療圏	人	
	県内の他の二次医療圏	人	
	県 外	人	
(9) 在宅		人	
(10) その他		人	

注 1) 居住系サービスとは、グループホーム、有料老人ホーム・軽費老人ホーム、高齢者専用賃貸住宅を指す。

■最後に、本調査に関連した事項でご意見等がございましたら、下欄に自由にお書き下さい。

設問は以上です。ご協力誠に有り難うございました。
ご記入いただきました調査票は、病棟患者票とあわせて、ご配布いただきました
施設長もしくは事務部門の責任者の方にお渡しください。

診療報酬改定結果検証に係る調査（平成 21 年度調査）

7対1入院基本料算定病棟に係る調査、亜急性期入院医療管理料
及び回復期リハビリテーション病棟入院料算定病院に係る調査、
並びに「地域連携クリティカルパス」に係る調査

亜急性期入院医療管理病室

入院中の患者用

- 上記の病室に平成21年8月5日（水）時点で入院していた全ての患者について、下記設問についてご回答下さい。
- 質問票は、患者1名に対して「A 患者の基本的事項」「B 現在の状況」をお訊ねしております。可能な範囲でご回答ください。

■ 質問票

A 患者の基本的事項

1	発症年月日	昭和・平成 ____年 ____月 ____日											
2	入院年月日	平成 ____年 ____月 ____日											
3	入室年月日	平成 ____年 ____月 ____日											
4	現在、診断されている主傷病と副傷病	(別紙の参考1「疾病コード表」より該当番号を選択)											
		①主傷病(1つ)	_____	②副傷病(2つまで)	_____								
5	診療科(1つ選択)	_____ (別紙の参考2「診療科コード表」より該当番号を選択)											
6	性別	1 男性	2 女性	7 年齢	(回答時現在) _____歳								
8	①世帯構成	1 単独世帯 2 同居有り世帯											
	②キーパーソン	1 有り 2 無し											
	③続柄 (②有りの場合)	<table border="0"> <tr> <td>1 配偶者</td> <td>4 父母または配偶者の父母</td> <td>7 兄弟姉妹</td> </tr> <tr> <td>2 子</td> <td>5 孫</td> <td>8 他の親族</td> </tr> <tr> <td>3 子の配偶者</td> <td>6 祖父母</td> <td>9 その他</td> </tr> </table>				1 配偶者	4 父母または配偶者の父母	7 兄弟姉妹	2 子	5 孫	8 他の親族	3 子の配偶者	6 祖父母
1 配偶者	4 父母または配偶者の父母	7 兄弟姉妹											
2 子	5 孫	8 他の親族											
3 子の配偶者	6 祖父母	9 その他											
9	入室期間中の算定状況	①地域連携診療計画管理料	1 有 2 無	③褥瘡患者管理加算	1 有 2 無								
		②地域連携診療計画退院時指導料	1 有 2 無	④後期高齢者退院調整加算	1 有 2 無								
10	院内クリニカルパスの使用状況	1 有り →	①バリエーションの状況	1 有り 2 無し									
		2 無し	(入院期間に関するものに限る。検査の変更等のバリエーションは含まない。)										
11	リハビリテーションの実施状況	1 有り →	①リハビリの種類 (複数選択可)	<table border="0"> <tr> <td>1 心大血管疾患</td> <td>4 呼吸器</td> </tr> <tr> <td>2 脳血管疾患等</td> <td>5 摂食機能療法</td> </tr> <tr> <td>3 運動器</td> <td>6 集団コミュニケーション</td> </tr> </table>		1 心大血管疾患	4 呼吸器	2 脳血管疾患等	5 摂食機能療法	3 運動器	6 集団コミュニケーション		
			1 心大血管疾患	4 呼吸器									
		2 脳血管疾患等	5 摂食機能療法										
3 運動器	6 集団コミュニケーション												
②リハビリ開始日	平成 ____年 ____月 ____日												
2 無し	③リハビリ頻度	週 _____単位											
12	透析の実施状況	1 有り →	①透析開始日	昭和・平成 ____年 ____月 ____日									
			②透析の方法	1 血液透析 2 腹膜透析									
		2 無し											

B 現在の患者状況

1	入室中の モニタリング及び 処置等の状況 (回答当日の状態)	1) 創傷処置	1 有 2 無	17) 免疫抑制剤の使用	1 有 2 無
		2) 血圧測定 5 回以上	1 有 2 無	18) 昇圧剤の使用	1 有 2 無
		3) 時間尿測定	1 有 2 無	19) 抗不整脈剤の使用	1 有 2 無
		4) 人工呼吸器管理	1 有 2 無	20) ドレナージの管理	1 有 2 無
		5) 酸素吸入	1 有 2 無	21) 24 時間持続点滴	1 有 2 無
		6) 気道内吸引	1 有 2 無	22) 抗生剤点滴治療	1 有 2 無
		7) 口腔内吸引	1 有 2 無	23) 脱水に対する治療	1 有 2 無
		8) 痰を出すための体位ドレナージ	1 有 2 無	24) 発熱に対する治療	1 有 2 無
		9) スクウィージング	1 有 2 無	25) せん妄に対する治療	1 有 2 無
		10) 点滴ライン同時 3 本以上	1 有 2 無	26) 肺炎に対する治療	1 有 2 無
		11) 心電図モニター	1 有 2 無	27) 尿路感染に対する治療	1 有 2 無
		12) シリンジポンプの使用	1 有 2 無	28) 経鼻胃管や胃ろう等の経腸栄養	1 有 2 無
		13) 輸血や血液製剤の使用	1 有 2 無	29) 血糖検査 1 日 3 回以上	1 有 2 無
		14) 抗悪性腫瘍剤の使用	1 有 2 無	30) ドレーン法又は胸腔・腹腔洗浄	1 有 2 無
		15) 麻薬注射薬の使用	1 有 2 無	31) 気管切開又は気管内挿管	1 有 2 無
		16) 放射線治療	1 有 2 無	32) 酸素療法	1 有 2 無
2	入室中の 患者の状況等 (回答当日の状態)	1) 寝返り	1 できる	2 何かにつかまればできる	3 できない
		2) 起き上がり	1 できる	2 できない	
		3) 座位保持	1 できる	2 支えがあればできる	3 できない
		4) 移乗	1 できる	2 見守り・一部介助が必要	3 できない
		5) 口腔清潔	1 できる	2 できない	
		6) 食事摂取	1 介助なし	2 一部介助	3 全介助
		7) 衣服の着脱	1 介助なし	2 一部介助	3 全介助

＜参考1＞疾病コード表 (ICD-10 2003年版を準用)

主傷病コード (001~120)		
I 感染症及び寄生虫症 001 腸管感染症 002 結核 003 主として性的伝播様式をとる感染症 004 皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス疾患 005 ウイルス肝炎 006 その他のウイルス疾患 007 真菌症 008 感染症及び寄生虫症の続発・後遺症 009 その他の感染症及び寄生虫症	041 屈折及び調節の障害 042 その他の眼及び付属器の疾患 VIII 耳及び乳様突起の疾患 043 外耳炎 044 その他の外耳疾患 045 中耳炎 046 その他の中耳及び乳様突起の疾患 047 メニエール病 048 その他の内耳疾患 049 その他の耳疾患	X II 皮膚及び皮下組織の疾患 085 皮膚及び皮下組織の感染症 086 皮膚炎及び湿疹 087 その他の皮膚及び皮下組織の疾患 X III 筋骨格系及び結合組織の疾患 088 炎症性多発性関節障害 089 関節症 090 脊椎障害 (脊椎症を含む) 091 椎間板障害 092 頸腕症候群 093 腰痛症及び坐骨神経痛 094 その他の脊柱障害 095 肩の傷害<損傷> 096 骨の密度及び構造の障害 097 その他の筋骨格系及び結合組織の疾患 X IV 腎尿路生殖系の疾患 098 糸球体疾患及び腎尿管間質性疾患 099 腎不全 100 尿路結石症 101 その他の腎尿路系の疾患 102 前立腺肥大 (症) 103 その他の男性生殖器の疾患 104 月経障害及び閉経周辺期障害 105 乳房及びその他の女性生殖器疾患
II 新生物 010 胃の悪性新生物 011 結腸の悪性新生物 012 直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物 013 肝及び肝内胆管の悪性新生物 014 気管、気管支及び肺の悪性新生物 015 乳房の悪性新生物 016 子宮の悪性新生物 017 悪性リンパ腫 018 白血病 019 その他の悪性新生物 020 良性新生物及びその他の新生物	IX 循環器系の疾患 050 高血圧性疾患 051 虚血性心疾患 052 その他の心疾患 053 くも膜下出血 054 脳内出血 055 脳梗塞 056 脳動脈硬化 (症) 057 その他の脳血管疾患 058 動脈硬化 (症) 059 痔核 060 低血圧 (症) 061 その他の循環器系の疾患	X V 妊娠、分娩及び産じょく 106 流産 107 妊娠高血圧症候群 108 単胎自然分娩 109 その他の妊娠、分娩及び産じょく X VI 周産期に発生した病態 110 妊娠及び胎児発育に関連する障害 111 その他の周産期に発生した病態 X VII 先天奇形、変形及び染色体異常 112 心臓の先天奇形 113 その他の先天奇形、変形及び染色体異常 X VIII 症状、徴候等で他に分類されないもの 114 症状、徴候等で他に分類されないもの X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響 115 骨折 116 頭蓋内損傷及び内臓の損傷 117 熱傷及び腐食 118 中毒 119 その他の損傷及びその他の外因の影響
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害 021 貧血 022 その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	X 呼吸器系の疾患 062 急性鼻咽頭炎 [かぜ] <感冒> 063 急性咽頭炎及び急性扁桃炎 064 その他の急性上気道感染症 065 肺炎 066 急性気管支炎及び急性細気管支炎 067 アレルギー性鼻炎 068 慢性副鼻腔炎 069 急性又は慢性と明示されない気管支炎 070 慢性閉塞性肺疾患 071 喘息 072 その他の呼吸器系の疾患	X I 消化器系の疾患 073 う蝕 074 歯肉炎及び歯周疾患 075 その他の歯及び歯の支持組織の障害 076 胃潰瘍及び十二指腸潰瘍 077 胃炎及び十二指腸炎 078 アルコール性肝疾患 079 慢性肝炎 (アルコール性のものを除く) 080 肝硬変 (アルコール性のものを除く) 081 その他の肝疾患 082 胆石症及び胆のう炎 083 膵疾患 084 その他の消化器系の疾患
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患 023 甲状腺障害 024 糖尿病 025 その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	V 精神及び行動の障害 026 血管性及び詳細不明の認知症 027 精神作用物質使用による精神及び行動の障害 028 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害 029 気分 [感情] 障害 (躁うつ病を含む) 030 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害 031 知的障害 (精神遅滞) 032 その他の精神及び行動の障害	VI 神経系の疾患 033 パーキンソン病 034 アルツハイマー病 035 てんかん 036 脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群 037 自律神経系の障害 038 その他の神経系の疾患
VII 眼及び付属器の疾患 039 結膜炎 040 白内障	VIII 眼及び付属器の疾患 041 屈折及び調節の障害 042 その他の眼及び付属器の疾患	XII 皮膚及び皮下組織の疾患 085 皮膚及び皮下組織の感染症 086 皮膚炎及び湿疹 087 その他の皮膚及び皮下組織の疾患

＜参考2＞診療科コード表

01 内科	10 アレルギー科	19 小児外科	28 性病科
02 呼吸器科	11 リウマチ科	20 産婦人科	29 こう門科
03 消化器科 (胃腸科)	12 外科	21 産科	30 リハビリテーション科
04 循環器科	13 整形外科	22 婦人科	31 放射線科
05 小児科	14 形成外科	23 眼科	32 麻酔科
06 精神科	15 美容外科	24 耳鼻いんこう科	33 歯科
07 神経科	16 脳神経外科	25 気管食道科	34 矯正歯科
08 神経内科	17 呼吸器外科	26 皮膚科	35 小児歯科
09 心療内科	18 心臓血管外科	27 泌尿器科	36 歯科口腔外科

注) 01~36 に定める診療科目以外を標榜している場合には、最も近似する診療科名をお選びください。

診療報酬改定結果検証に係る調査（平成 21 年度調査）

7 対 1 入院基本料算定病棟に係る調査、亜急性期入院医療管理料
及び回復期リハビリテーション病棟入院料算定病院に係る調査、
並びに「地域連携クリティカルパス」に係る調査

亜急性期入院医療管理病室

退院(室)患者用

- 上記の病室を平成 21 年 6 月に退室された全ての患者について、下記設問についてご回答下さい。
○ 質問票は、患者 1 名に対して「A 患者の基本的事項」「B 入室時の患者状況」「C 退室時の患者状況」
をお訊ねしております。可能な範囲でご回答ください。

■ 質問票

A 患者の基本的事項

1	発症年月日	昭和・平成 ____年 ____月 ____日			
2	入院年月日	平成 ____年 ____月 ____日			
3	入室年月日	平成 ____年 ____月 ____日			
4	入室期間中に 診断された 主傷病と副傷病	(別紙の参考 1「疾病コード表」より該当番号（退院時サマリの主傷病欄等に記入された傷病）を選択)			
		①主傷病(1つ)	_____	②副傷病(2つまで)	_____
5	診療科(1つ選択)	_____ (別紙の参考 2「診療科コード表」より該当番号を選択)			
6	性別	1 男性	2 女性	7 年齢	(6月1日現在) _____ 歳
8	①世帯構成	1 単独世帯 2 同居有り世帯			
	②キーパーソン	1 有り 2 無し			
	③続柄 (②有りの場合)	1 配偶者	4 父母または配偶者の父母	7 兄弟姉妹	
		2 子	5 孫	8 他の親族	
		3 子の配偶者	6 祖父母	9 その他	
9	入室期間中の 算定状況	①地域連携診療計画管理料	1 有 2 無	③褥瘡患者管理加算	1 有 2 無
		②地域連携診療計画退院時指導料	1 有 2 無	④後期高齢者退院調整加算	1 有 2 無
10	院内クリニカルパス の使用状況	1 有り →	①バリエーションの状況	1 有り 2 無し	
		2 無し	(入院期間に関するものに限る。検査の変更等のバリエーションは含まない。)		
11	リハビリテーション の実施状況	1 有り →	①リハビリの種類 (複数選択可)	1 心大血管疾患	4 呼吸器
				2 脳血管疾患等	5 摂食機能療法
				3 運動器	6 集団コミュニケーション
		②リハビリ開始日	平成 ____年 ____月 ____日		
	③リハビリ頻度	週 _____ 単位			
12	透析の実施状況	1 有り →	①透析開始日	昭和・平成 ____年 ____月 ____日	
		2 無し	②透析の方法	1 血液透析 2 腹膜透析	

B 入室時の患者状況

1	入室前の居場所 (1つ選択)	1 在宅	10 7～9以外の他院の他の病床 ^{注2}		
		2 自院の急性期病床 ^{注1}	11 介護老人保健施設(老人保健施設)		
2	入室した背景 (複数選択可)	3 自院の回復期リハビリテーション病棟	12 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)		
		4 2～3以外の自院の一般病床	13 グループホーム		
		5 2～3以外の自院の療養病床	14 有料老人ホーム・軽費老人ホーム(ケアハウス)		
		6 2～5以外の自院の他の病床 ^{注2}	15 高齢者専用賃貸住宅		
		7 他院の回復期リハビリテーション病棟	16 障害者支援施設		
		8 7以外の他院の一般病床	17 その他		
		9 7以外の他院の療養病床			
		10 急性期治療を経過した状態が安定したため			
11 在宅・介護施設等からの患者であり症状が急性増悪したため					
12 リハビリテーションを行うため					
13 栄養状態の改善のため					
14 患者・家族に対する今後の療養生活に係る指導等のため					
15 退院先を確保するまで一時的に待機が必要なため					
16 本人・家族が希望するため					
17 その他(自由記入欄)					
3	入室中の 患者の状況等	①中心静脈栄養	1有 2無	⑨インスリン皮下注射	1有 2無
		②経管栄養(経鼻・胃ろう)	1有 2無	⑩体位ドレナージ	1有 2無
		③褥瘡処置	1有 2無	⑪輸血、血液製剤	1有 2無
		④輸液ポンプ、シリンジポンプの使用	1有 2無	⑫放射線治療	1有 2無
		⑤胃ろう・腎ろう等の処置	1有 2無	⑬麻薬の使用	1有 2無
		⑥ドレーン法・胸腹腔洗浄	1有 2無	⑭内視鏡検査・内視鏡的処置	1有 2無
		⑦気管切開	1有 2無	⑮全身麻酔を伴う処置	1有 2無
		⑧人工呼吸器の装着	1有 2無	⑯床上安静の指示	1有 2無

注1) 急性期病床とは、救命救急入院料、特定集中治療室管理料、ハイケアユニット入院医療管理料、脳卒中ケアユニット入院医療管理料、新生児特定集中治療室管理料、総合周産期特定集中治療室に係る届出病床を指す。

注2) 他の病床とは、結核病床・精神病床・感染症病床を指す。

C 退室時の患者状況

1	退室年月日	平成 21年 6月 ____日			
2	退院支援計画書	① 作成日	平成 ____年 ____月 ____日		
		② 作成者	1 医師	2 看護師	3 在宅支援を担当する者
3	退室先 (1つ選択)	1 在宅	10 7～9以外の他院の他の病床 ^{注2}		
		2 自院の急性期病床 ^{注1}	11 介護老人保健施設(老人保健施設)		
4	日常生活機能評価 (把握されている項目 に点数を記入)	3 自院の回復期リハビリテーション病棟	12 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)		
		4 2～3以外の自院の一般病床	13 グループホーム、有料老人ホーム等		
		5 2～3以外の自院の療養病床	14 高齢者専用賃貸住宅		
		6 2～5以外の自院の他の病床 ^{注2}	15 障害者支援施設		
		7 他院の回復期リハビリテーション病棟	16 死亡		
		8 7以外の他院の一般病床	17 その他		
		9 7以外の他院の療養病床			
		10 治癒	11 軽快	12 不変	13 悪化
5	日常生活機能評価 (把握されている項目 に点数を記入)	①床上安静の指示	点	⑧口腔清潔	点
		②どちらかの手を胸元まで持ち上げられる	点	⑨食事摂取	点
		③寝返り	点	⑩衣服の着脱	点
		④起き上がり	点	⑪他者への意思の伝達	点
		⑤座位保持	点	⑫診療・療養上の指示が通じる	点
		⑥移乗	点	⑬危険行動	点
		⑦移動方法			

注1) 急性期病床とは、救命救急入院料、特定集中治療室管理料、ハイケアユニット入院医療管理料、脳卒中ケアユニット入院医療管理料、新生児特定集中治療室管理料、総合周産期特定集中治療室に係る届出病床を指す。

注2) 他の病床とは、結核病床・精神病床・感染症病床を指す。

6	バーセル指数 (把握されている項目 に点数を記入)	①食 事	点	⑥平地歩行	点
		②移 乗	点	⑦階段昇降	点
		③整 容	点	⑧更 衣	点
		④トイレ動作	点	⑨排便コントロール	点
		⑤入 浴	点	⑩排尿コントロール	点
7	退室までの経緯 (1つ選択)	1 診療計画書にある推定入院期間より早く退室 2 診療計画書にある推定入院期間どおりの退室 3 病状が安定せず、退室が延びた 4 入所・転院する施設の都合で、退棟が延びた 5 退棟先である在宅で、家族等の受入れ体制が整わず、退棟が延びた 6 退棟先である在宅での介護保険サービスの利用開始待ちのため、退棟が延びた 7 その他(自由記入欄)			

＜参考1＞疾病コード表 (ICD-10 2003年版を準用)

主傷病コード (001~120)		
I 感染症及び寄生虫症	041 屈折及び調節の障害 042 その他の眼及び付属器の疾患	X II 皮膚及び皮下組織の疾患
001 腸管感染症	VIII 耳及び乳様突起の疾患 043 外耳炎 044 その他の外耳疾患 045 中耳炎 046 その他の中耳及び乳様突起の疾患 047 メニエール病 048 その他の内耳疾患 049 その他の耳疾患	085 皮膚及び皮下組織の感染症
002 結核		086 皮膚炎及び湿疹
003 主として性的伝播様式をとる感染症		087 その他の皮膚及び皮下組織の疾患
004 皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス疾患		X III 筋骨格系及び結合組織の疾患
005 ウイルス肝炎		088 炎症性多発性関節障害
006 その他のウイルス疾患		089 関節症
007 真菌症		090 脊椎障害 (脊椎症を含む)
008 感染症及び寄生虫症の続発・後遺症		091 椎間板障害
009 その他の感染症及び寄生虫症		092 頸腕症候群
II 新生物	IX 循環器系の疾患	093 腰痛症及び坐骨神経痛
010 胃の悪性新生物	050 高血圧性疾患	094 その他の脊柱障害
011 結腸の悪性新生物	051 虚血性心疾患	095 肩の傷害<損傷>
012 直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物	052 その他の心疾患	096 骨の密度及び構造の障害
013 肝及び肝内胆管の悪性新生物	053 くも膜下出血	097 その他の筋骨格系及び結合組織の疾患
014 気管、気管支及び肺の悪性新生物	054 脳内出血	X IV 腎尿路生殖系の疾患
015 乳房の悪性新生物	055 脳梗塞	098 糸球体疾患及び腎尿管間質性疾患
016 子宮の悪性新生物	056 脳動脈硬化 (症)	099 腎不全
017 悪性リンパ腫	057 その他の脳血管疾患	100 尿路結石症
018 白血病	058 動脈硬化 (症)	101 その他の腎尿路系の疾患
019 その他の悪性新生物	059 痔核	102 前立腺肥大 (症)
020 良性新生物及びその他の新生物	060 低血圧 (症)	103 その他の男性生殖器の疾患
	061 その他の循環器系の疾患	104 月経障害及び閉経周辺期障害
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	X 呼吸器系の疾患	105 乳房及びその他の女性生殖器疾患
021 貧血	062 急性鼻咽頭炎 [かぜ] <感冒>	X V 妊娠、分娩及び産じょく
022 その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	063 急性咽頭炎及び急性扁桃炎	106 流産
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	064 その他の急性上気道感染症	107 妊娠高血圧症候群
023 甲状腺障害	065 肺炎	108 単胎自然分娩
024 糖尿病	066 急性気管支炎及び急性細気管支炎	109 その他の妊娠、分娩及び産じょく
025 その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	067 アレルギー性鼻炎	X VI 周産期に発生した病態
V 精神及び行動の障害	068 慢性副鼻腔炎	110 妊娠及び胎児発育に関連する障害
026 血管性及び詳細不明の認知症	069 急性又は慢性と明示されない気管支炎	111 その他の周産期に発生した病態
027 精神作用物質使用による精神及び行動の障害	070 慢性閉塞性肺疾患	X VII 先天奇形、変形及び染色体異常
028 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	071 喘息	112 心臓の先天奇形
029 気分 [感情] 障害 (躁うつ病を含む)	072 その他の呼吸器系の疾患	113 その他の先天奇形、変形及び染色体異常
030 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	X I 消化器系の疾患	X VIII 症状、徴候等で他に分類されないもの
031 知的障害 (精神遅滞)	073 う蝕	114 症状、徴候等で他に分類されないもの
032 その他の精神及び行動の障害	074 歯肉炎及び歯周疾患	X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響
VI 神経系の疾患	075 その他の歯及び歯の支持組織の障害	115 骨折
033 パーキンソン病	076 胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	116 頭蓋内損傷及び内臓の損傷
034 アルツハイマー病	077 胃炎及び十二指腸炎	117 熱傷及び腐食
035 てんかん	078 アルコール性肝疾患	118 中毒
036 脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	079 慢性肝炎 (アルコール性のものを除く)	119 その他の損傷及びその他の外因の影響
037 自律神経系の障害	080 肝硬変 (アルコール性のものを除く)	
038 その他の神経系の疾患	081 その他の肝疾患	
VII 眼及び付属器の疾患	082 胆石症及び胆のう炎	
039 結膜炎	083 膝疾患	
040 白内障	084 その他の消化器系の疾患	

＜参考2＞診療科コード表

01 内科	10 アレルギー科	19 小児外科	28 性病科
02 呼吸器科	11 リウマチ科	20 産婦人科	29 こう門科
03 消化器科 (胃腸科)	12 外科	21 産科	30 リハビリテーション科
04 循環器科	13 整形外科	22 婦人科	31 放射線科
05 小児科	14 形成外科	23 眼科	32 麻酔科
06 精神科	15 美容外科	24 耳鼻いんこう科	33 歯科
07 神経科	16 脳神経外科	25 気管食道科	34 矯正歯科
08 神経内科	17 呼吸器外科	26 皮膚科	35 小児歯科
09 心療内科	18 心臓血管外科	27 泌尿器科	36 歯科口腔外科

注) 01~36 に定める診療科目以外を標榜している場合には、最も近似する診療科名をお選びください。

診療報酬改定結果検証に係る調査（平成 21 年度調査）

7 対 1 入院基本料算定病棟に係る調査、亜急性期入院医療管理料
及び回復期リハビリテーション病棟入院料算定病院に係る調査、
並びに「地域連携クリティカルパス」に係る調査

- 特に指定がある場合を除いて、平成21年6月1日現在の状況についてお答え下さい。
- 数値を記入する設問で、該当する者・施設等が無い場合は、「0」（ゼロ）をご記入下さい。

■本調査票のご記入日・ご記入者について下表にご記入下さい。

調査票ご記入日	平成 21 年 () 月 () 日
ご記入担当者名	
連絡先電話番号	
連絡先 FAX 番号	

■貴院の概要についてお伺いします。

問 1 貴院の開設者として該当するものをお選びください。(〇は 1 つ)

01 公的医療機関 (都道府県,市町村, 一部事務組合,日赤,済生会,北海道社会事業協会,厚生連,国民健康保険団体連合会)
02 医療法人
03 個人
04 その他 (上記以外)

問 2 貴院の診療科目について該当するものを全てお選びください。01～36 に定める診療科目以外を標榜している場合には、最も近似する診療科名をお選びください。(〇はいくつでも)
なお、複数の科目を選ばれた場合は、主たる診療科目の番号をご記入ください。

01 内科	10 アレルギー科	19 小児外科	28 性病科
02 呼吸器科	11 リウマチ科	20 産婦人科	29 こう門科
03 消化器科 (胃腸科)	12 外科	21 産科	30 リハビリテーション科
04 循環器科	13 整形外科	22 婦人科	31 放射線科
05 小児科	14 形成外科	23 眼科	32 麻酔科
06 精神科	15 美容外科	24 耳鼻いんこう科	33 歯科
07 神経科	16 脳神経外科	25 気管食道科	34 矯正歯科
08 神経内科	17 呼吸器外科	26 皮膚科	35 小児歯科
09 心療内科	18 心臓血管外科	27 泌尿器科	36 歯科口腔外科

(複数の診療科目を選ばれたのみ) 主たる診療科目の番号をご記入ください。 →

問3 貴院の 届出の状況 について該当するものを全てお選びください。(〇はいくつでも)		
届出の状況 (〇はいくつでも)	01 在宅療養支援診療所 02 退院調整加算	03 後期高齢者退院調整加算 04 診療所後期高齢者医療管理料

問4 貴院に所属している平成21年6月時点の 医師数 をご記入ください。(〇は1つ)		
医師数		人

問5 貴院における平成21年6月時点の 稼動病床数 及び 平均在院日数 についてご記入下さい。		
		平成21年6月
(1) 稼動病床数		床
(2) [再掲] 一般病床数		床
(3) [再掲] 療養病床数		床
(4) [再掲] 診療所後期高齢者医療管理料算定病床数		床
	平成20年4~6月	平成21年4~6月
(5) 平均在院日数 ^{注1}	. 日	. 日

注1) 平均在院日数の算出方法

下記のように平成20年4月~6月、平成21年4月~6月のそれぞれ3カ月の平均在院日数を算出して、小数点第2位を切り上げ、小数第一位までを記入。

$$\text{平均在院日数} = \frac{\text{4月~6月の在院患者延数}}{(\text{4~6月の新規入院患者数} + \text{4~6月の退院患者数(転院を含む)}) \times 0.5}$$

■ 貴院の医療提供状況についてお伺いします。

問6 貴院の 外来患者延べ数 、 入院患者延べ数 について、平成20年6月及び平成21年6月の総数をご記入ください。		
	平成20年6月	平成21年6月
(1) 外来患者延べ数	人	人
(2) 入院患者延べ数	人	人

問7 貴院の平成21年6月の外来患者について、 実人数 、 病院からの紹介患者数 をご記入下さい。		
		平成21年6月
(1) 外来患者数		人
(2) [再掲] 病院からの紹介患者数		人

問8 貴院の平成21年6月の新規入院患者について、 実人数 及び 病院からの転院患者 、 他診療所からの紹介患者別の人数 をご記入下さい。あわせて、貴院の平成21年6月の退院患者について、 実人数 及び 退院先別の人数 をご記入下さい。		
		平成21年6月
(1) 新規入院患者数		人
(2) [再掲] 病院からの転院患者		人
(3) [再掲] 三次救急病院、二次救急病院からの転院患者		人
(4) [再掲] 亜急性期病室を有する病院からの転院患者		人
(5) [再掲] 回復期リハビリテーション病棟を有する病院からの転院患者		人
(6) [再掲] 療養病床を有する病院からの転院患者		人
(7) [再掲] 他診療所からの紹介患者		人
(8) 退院患者数		人
(9) [再掲] 他院へ転院した患者		人
(10) [再掲] 自院の外来に通う患者		人
(11) [再掲] 他診療所の外来に通う患者		人
(12) [再掲] 死亡退院した患者		人

問9 貴院において、平成21年4月～6月の3ヶ月に <u>紹介・逆紹介の実績がある保険医療機関数</u> をご記入下さい。		
	平成21年4～6月	
(1) 病院		施設
(2) [再掲] 三次救急病院、二次救急病院		施設
(3) [再掲] 亜急性期病室を有する病院		施設
(4) [再掲] 回復期リハビリテーション病棟を有する病院		施設
(5) [再掲] 療養病床を有する病院		施設
(6) 一般診療所		施設

問10 貴院は <u>大腿骨頸部骨折及び脳卒中に係る地域連携診療計画退院時指導料の届出</u> をされていますか。該当する選択肢番号に○をお付けください。		
地域連携診療計画退院時指導料 (○は1つ)	01 届出なし	02 届出あり

問10において、地域連携診療計画退院時指導料について「02 届出あり」と回答された場合には、以下の問11～12にもご回答ください。「01 届出なし」と回答された場合には、問13へお進みください。

■貴院の地域連携診療計画退院時指導料に係る状況についてお伺いします。

問11 貴院が地域連携診療計画退院時指導料を算定されている場合は、 <u>計画管理病院数と計画管理病院とのカンファレンスの頻度、算定患者数</u> について、平成20年度の状況をご記入下さい。なお、カンファレンスの頻度については1ヶ月平均回数をご記入下さい。		
		平成20年度
(1) 大腿骨頸部骨折	①計画管理病院数	施設
	②計画管理病院とのカンファレンス (情報交換の機会) 頻度	回/月
	③算定患者数	人
(2) 脳卒中	①計画管理病院数	施設
	②計画管理病院とのカンファレンス (情報交換の機会) 頻度	回/月
	③算定患者数	人

問12 貴院が地域連携診療計画退院時指導料を算定している場合は、平成21年6月の1ヶ月に、貴院において <u>地域連携診療計画退院時指導料を算定した患者全て</u> について、該当する箇所 ^① にその状況をご記入下さい。		
	平成21年6月	
■ <u>計画管理病院からの転院時</u> について		
(1) 日常生活機能評価の合計点数の平均値		点
■ <u>貴院からの退院時</u> について		
(2) 算定患者の平均在院日数		日
(3) 日常生活機能評価の合計点数の平均値		点
(4) 設定された総治療期間内に退院できた患者の数		人
(5) 設定された総治療期間内に退院できなかった場合の <u>主な理由</u> (○は1つ)		
01 病状が安定せず、退院が延びた		
02 入所・転院する施設の都合で、退院が延びた		
03 退院先である在宅で、家族等の受入れ体制が整わず、退室が延びた		
04 退院先である在宅での介護保険サービスの利用開始待ちのため、退棟が延びた		
05 その他 ()		

■貴院の医療機能に係る今後の方針についてお伺いします。

問 13 貴院の医療機能に係る今後の方針について該当するものをお選びください。

(1) 貴病院では特定の医療機能（急性期医療機能や療養機能など）への特化を予定されていますか（○は1つ）

<p>01 特化する予定である</p> <p>▶① 今後、特化する予定の医療機能はどれですか。（○は1つ）</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>01 急性期医療機能</td> <td>03 療養機能</td> </tr> <tr> <td>02 回復期リハビリ機能</td> <td>04 その他（ ）</td> </tr> </table> <p>▶② 今後、亜急性期医療機能を導入、拡充する予定はありますか。（○は1つ）</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>01 導入、拡充する予定がある</td> <td>02 導入、拡充する予定はない</td> </tr> </table>	01 急性期医療機能	03 療養機能	02 回復期リハビリ機能	04 その他（ ）	01 導入、拡充する予定がある	02 導入、拡充する予定はない	<p>02 特化する予定はない</p>
01 急性期医療機能	03 療養機能						
02 回復期リハビリ機能	04 その他（ ）						
01 導入、拡充する予定がある	02 導入、拡充する予定はない						

(2) (1) の方針の理由についてご記入ください。

【自由回答】

■貴院の今後の医療機関との連携に関する意向についてお伺いします。

問 14 貴院における紹介・逆紹介をはじめとする他の医療機関との連携に関する意向について、該当するものをお選びください。

(1) 貴病院では連携する医療機関数についてどのような意向をお持ちですか（○は1つ）

01 増やしたい	02 減らしたい	03 現状のままでよい
----------	----------	-------------

▶①今後の連携先として増やしたい医療機能はどれですか。また、その医療機能を持つ医療機関は地域に十分にありますか。（○はいくつでも）

01 急性期医療機能	02 亜急性期医療機能	03 回復期リハビリ機能	04 療養機能
↓	↓	↓	↓
01 地域に十分にある	01 地域に十分にある	01 地域に十分にある	01 地域に十分にある
02 地域に十分でない	02 地域に十分でない	02 地域に十分でない	02 地域に十分でない
03 地域に全くない	03 地域に全くない	03 地域に全くない	03 地域に全くない
04 不明	04 不明	04 不明	04 不明

(2) (1) の方針の理由についてご記入ください。

【自由回答】

■最後に、本調査に関連した事項でご意見等がございましたら、下欄に自由にお書き下さい。

設問は以上です。ご協力誠に有り難うございました。

記入漏れがないかをご確認の上、8月24日(月)までに、同封の返信用封筒に入れてご投函下さい。